The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 20 | Issue 3 | March 2017

In this issue...

▶03...CISニュース
▶10...The Bookworm Reading Challenge
▶11...決断と結果
▶12...年賀状による募金活動
▶20...MUN会議 in 上海
▶22...実社会での経済学
▶25...Project Rousseau
▶27...Japanese New Year Party
▶28...Week of Code
▶30...ﾊﾋﾞﾀｯﾄ･ﾌｫｰ･ﾋｭｰﾏﾆﾃｨｰ
▶32...リサイクルの取組み
▶33...TASSEL活動

「真に自然を愛するなら、どのような場所にも美を見出すことができる。」

—Vincent Van Gogh

学校長より

KISTコミュニティの皆様、

学校コミュニティ全てのエリアの2年間に亘る努力の結果、KISTがこの度Council of International Schools (CIS)より完全認可を取得しました事を、皆さんにご報告できるのを非常に誇らしく思っております。この認可取得により、KISTは世界112カ国の511校以上のCISコミュニティの一員となります。CIS はKISTが学校全体の運営、経営、そしてカリキュラムなどの各分野において厳しい基準を満たしているという「お墨付き」を与えてくれます。

ご存じの通り、2016-17年度でKISTは20週年を迎えます。そしてこの記念すべき年にCIS認可を得ることができたことは大きな成果であり喜びです（CISからの認可の通知はMr Komakiのお誕生日当日に届いたことから、二重の喜びとなりました！）。学校の目標達成のために、CIS認可コーディネーターとしてコミュニティに対して大きなリーダーシップを発揮してくれたMr Sullivanと、これまで様々な方法で学校を支援してくださった皆様に心からの感謝を捧げます！

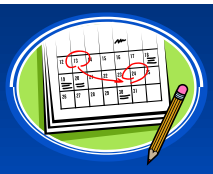
さて、春が近づくとともに、学年度も終わりに近づいています。IB再評価訪問終了と、CIS認可に加え、冬休み以降、KISTでは多くの楽しいイベントが行われてきました。

今年も、恒例のJapanese New Year's Party に大きなご協力を下さいましたSakamoto Familyと、KIST CAの皆さんに心からお礼を申し上げます。生徒にホスト国である日本の文化を祝う機会を与え、実際の力士の方々と交流する機会を提供するためにコミュニティが一丸となって行動するのを見ることが出来るのは大きな喜びです。New Year's Party は私のお気に入りのイベントの一つで、生徒たち（と教師たち）を喜ばせるためにお手伝い頂いた保護者の皆さんには本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

KIST図書チームが企画した、World Cultures Dayは今年も大成功でした。今年もお天気に恵まれ、生徒やスタッフは民族衣装、踊り、食べ物や発表を通して様々な文化を楽しみながら体験しました。当日お手伝いいただいた皆さんを始め、衣装や食べ物を提供くださった保護者の皆さんにも感謝致します。また、読み聞かせからベイクセールまで多くの活動にボランティアで参加してくださったCAを始めとする保護者の皆さんにもお礼申し上げます。毎年、このイベント準備のために多くの時間と労力を提供してくれている図書チームにも感謝します。

次のページに続く

Dates to Remember



March 2017

15 (G2-G3) Mathematics diagnostic testing
16 (K1/K2/K3) Kindergarten concert rehearsals
17 (K1/K2/K3) Kindergarten concert (*Morning)
20 Student-led conferences
20 Spring university fair
24 Last day of quarter 3
24 DP Art exhibition
25-Apr 2 Spring vacation

April 2017

3 School resumes for all students
7 (G1-G1) KIST cross country meet
10 School photographs (for new and absent students)
12 (K1/K2/K3) Cross country (*Morning)
17 (G10) DP subject options session for parents and students (*Evening)
19 (G7-G11) Math field day (Hosted@Zama)
21 ISTAA cross country invitational
21 (G12) Last day of classes
24-28 (G12) DP study week (G12 teachers available)
27-28 (G5) PYP exhibition
28-May 19 (G12) DP examinations
28-May 7 Golden Week vacation

PYP | MYP | DP

前ページの続き

また、実はこのイベントに関しては現段階ではまだ実施されていないのですが、皆さんが10年生のMYP学習の集大成となるMYP Personal Project Exhibitionに参加され、生徒たちの学習成果をともに祝ってくださることを願っています。毎年このExhibitionではコミュニティの皆さんにMYPについてよりよく知って頂くとともに、生徒が興味を持っている分野や、KISTで行われている学習やその他様々な活動についてより良く知って頂ける機会をご提供しています。Mr Whiteと、G10の生徒たちの取り組みをPersonal Project Supervisorsとしてサポートして下さった教職員に大きな感謝を捧げます。また、この期間中、ご家庭でお子さんを忍耐強くサポートし続けてくださったG10保護者の皆様にも感謝致します。

今学期はあと2つ重要なexhibitionsが実施されます。まず、春休み前の3月24日にはDP美術 Exhibitionがあります。DP生の創造性溢れる作品を是非見にいらして下さい。この盛大なイベントの準備に多くの時間を費やしてこられたMr Jones (私ではない方の、です！)の尽力 に感謝します。その後、5年生がPYPの集大成として10週間をかけて準備をしてきたPYP Exhibitionが行われます。この恒例イベントの成功のために生徒の探求をサポートしてくださったMr Archibald、Mr Grant、Ms Parkinsonを始め、多くの教員スパーバイザー、そして保護者の皆様に心より感謝致します。

1月には12年生が初めてのDP模擬試験を無事終了し、3月6日から13日までの日程で2回目の模試に臨みます。これら模試は4月28日から5月19日に行われるIBDP本試験のための準備となり、これによって生徒たちは本試験に向けて心構えができてきます。これまでのところ、模擬試験の結果は良好で、G12にとって非常に幸先の良い滑り出しといえます。G12の生徒の皆さん、幸運を祈ります。KISTコミュニティ全員が心から皆さんの成功をお祈りしています。皆さんが今号の*The Comet* を楽しんでくださることを願っています。そしてこれから開催されるイベントで多くの皆さんとお会い出来ることを心より望んでいます。最後に、評価訪問中、IBチームより頂いたKISTに対する素晴らしい評価を共有させていただきたいと思います。また、今号に掲載されていますCISの評価コメントも併せてご一読下さいますよう、お願いいたします。

> KISTの、相互理解と尊敬の念に基づく開放的な対話姿勢を評価します。学校コミュニティ全体に流れる意欲的で触発的な学習環境を形成したことを高く評価します。

これまでの皆さんの努力と貢献に心から感謝いたします。来る桜の季節を皆さんが楽しまれることを願っています！

Jeffrey Jones
Head of School

理事長よりご挨拶

CIS正会員認定取得

昨年11月末から1週間、CISの認定訪問がIBの3プログラムの評価訪問と同時に行われ、KISTは晴れてCISの正会員に認定されましたことを皆様にご報告申し上げ、共に祝いたいと思います。

これでKISTはこれまでも有していたIB 3プログラムの認定資格および日本の学校法人資格と共に世界中で多くの学校が加盟している国際的なインターナショナルスクールの評価団体であるCISの認定校になることが出来ました。

学校理事会を代表し、このために通常業務に加え、長期間に渡り準備を重ねてきた学校長のMr Jones並びにCISコーディネーターのMr Sullivanを始め、self-studyに熱心に貢献してくださった学校コミュニティ;教職員、保護者、生徒の皆さん全員に心より感謝の気持ちを伝えたいと思います。

本当にありがとうございました、そしてハードな作業、お疲れ様でした。

奨学金制度は何のため？

前回のコメントで'何のために学ぶのか？'について述べさせて頂きました。その延長線上にKISTの奨学金制度があります。

奨学金制度は、人格的にも学問的にも秀でた生徒を顕彰し、資金的にサポートするものですが、その目的はあくまでもKISTのミッション達成を促進することにあります。

具体的に言えば、KIST奨学金制度の目的は、'自分は将来世の中をより良くするために貢献したい、そのために出来る限り知識やスキルを高めていきたい'という使命感を持った仲間を増やしていくためです。

毎年優秀な生徒が奨学金制度に応募してきますが、中にはKISTのミッションをよく理解していない生徒も見受けられます。

生徒の皆さん、自分の受ける恩恵をラッキーと思うのではなく、それを励みとし、栄誉として、それを将来世の中に返すんだ、という気概を持って奨学金制度に応募して下さい。

Yoshishige Komaki
Board President

CISニュース

CISはKISTコミュニティ各部門の協力体制やこれまでの努力を以下の通り評価してくれました。認可に際し、CISより頂いた評価報告を皆さんと共有できることを誇らしく思っております。

KISTの目標達成のためにご尽力くださった**全ての方に**心から感謝申し上げます。

CIS 認可レポートの結果報告:

KISTはその理念に従い、自覚あるコミュニティであり、自身の信念や学問的な成功、協力的な関係に誇りを持つ共同体です。また、学校として次の成長段階に進むための組織作りや仕組みを確立しようとしています。理事会及びリーダーシップチームは既に、学問的成功を達成し、生徒の能力を引き出し、彼らの将来に備えるための能力を発揮・証明しています。

過去3年間で学校は多くの重要な分野で著しい成長を遂げています。KISTではビジョン、ミッション、信条と教育目標を見直し、明確なものにしました。これらはコミュニティ全体にしっかりと理解されています。すべての年齢層の生徒がそれぞれにふさわしい言語能力を駆使し、'global citizens'としての行動を取るとともに、学校に誇りを持って生活しています。理事会、リーダーシップチーム、そしてスタッフはビジョンとミッションに従う意志を明確に表し、これらを学校コミュニティにも伝えています。

学校は国際化に関する取り組みにも力を入れており、国際化とは、単に様々なイベントや華やかな民族衣装などを楽しみ、表現するだけでなく、精神的な概念を築くことであるという意識もしっかりと有しています。教職員や生徒は教室で様々な国籍を持つ生徒たちと交流し、英語と日本語の能力を発達させています。課外活動や奉仕活動を通して生徒たちは地球規模の問題について議論を行ったり、自分自身より恵まれない環境にある人達へのサポートプロジェクトを行ったりしています。

生徒の学習環境は思いやりに溢れながらも、学習と生徒の福利への強い意識を反映したものです。生徒たちは自身も敬意を十分にはらわれていることを理解しながら教師への尊敬の念を持って接します。保護者の来校も歓迎され、様々な行事において積極的に協力しています。施設も良い状態に管理されており、これら全てが学校のチームワークと互いへの敬意に寄与しています。

KISTは意見を取り入れる学校です。理事会および経営チームがCIS事前訪問報告書での指摘事項やアンケート、そしてSelf-Studyレポートに対し迅速に対応したことは素晴らしいと感じます。訪問チームはこのSelf-Studyレポートで学校が述べた問題にも決断力と熱意を持って対応されると確信しています。しかし、これら問題点がすべて近年中に解決された暁には達成感を持って学校自身を評価出来ると考えます。

次のページに続く

前ページの続き

CIS 認可レポートの賞賛・推奨事項:

（賞賛・推奨事項は、CISが定めた基準を超えたて学校にとって強みとなる分野です）

学校の信条に関して

- 学校コミュニティの、創設者のKISTビジョン及びミッションへの貢献と理解と、実際の会話や日常生活に溶け込んでいる点
- 生徒の意欲と貢献・努力及び学力達成に対する学校の高い期待値の受容
- 理事会およびシニアマネジメントチームが国際理解に関する定義を作成した点。これにより学校コミュニティ全体で、異文化への理解と心配りが生まれている
- シニアマネジメントチーム及びスタッフが、学習・授業時間の制限の中で、幅広い国際的・異文化理解の行事を計画・開催している点
-

経営及びリーダーシップに関して

- 理事会がしっかりとした方向性を示し、リーダーシップ、そして学校に効果的な援助を提供している点
- 理事会及び学校長の前向きで良好な信頼性のある、開放的で相互理解のある関係性
- 学校長は学校の教育プログラムに対し、ダイナミックで責任感あるリーダーシップを提供しており、シニアマネジメントチーム及び教育上のリーダーシップチームによってよく補助・援助されている

教職員及びサポートスタッフに関して

- 学校関係者すべてが教室内外で良好な関係を保っていること
- 学校長及び理事会がスタッフ間の給与格差を認識し、学校のミッション達成の為に学費を低く抑える取り組みを導入している点

学習へのアクセスに関して

- ITサポートチームが、学校全体で生徒の進度記録するための効果的な方法を提供している点
- シニアマネジメントチームが学校で幅広い言語サポートを提供している点
- 以前の、そして現在のナースが、全スタッフ閲覧可能なように生徒の記録を電子及び紙媒体で管理し、健康上の問題に関して学校全体に効果的に伝達している点
- 学校カフェチームが健康的で新鮮な食事を提供し、素材・産地についても共有している点

学校文化及び学習パートナーシップに関して

- サービス（奉仕活動）コーディネーターがHabitat for Humanity やカンボジアでのTASSELプロジェクトなど様々な異文化体験の機会を提供している点

運営システムに関して

- シニアマネジメントチームがITスタッフ増員やワイヤレス・インターネットの更新、外注作業の増加を承認・サポートしている点。これはEndicottアンケート結果に基づいた取り組みです。

Ms Amanda、さようなら!

昨年の9月にKISTはマレーシアのTaylor's Universityからの2人めの教育実習生をお迎えしました。それから6ヶ月間、Ms Amandaはエレメンタリーの生徒達を熱心にサポートしてくださいましたが、先日、エレメンタリー教師となるのに必要な残りの単位取得のため、マレーシアに帰国されました。

Ms Amanda がいらっしゃらなくなって寂しいですが、KISTのためにしてくださった全てのことに感謝しています。Ms Amandaの学生生活が実り多いものであることをお祈りしています。そして、また是非KISTに遊びにいらしてください！

エレメンタリースクールニュース

子どものためのコーディング

コーディングを学ぶことには多くの利点があります。論理的思考力の発達など明らかな理由の他にもPorter (2016)によると、「コンピュータコーディングはこの惑星全体で通用する共通言語であり、コーディングを知るものは国や文化の壁を超え意思を伝え、革新的で効率的な問題解決能力を有する」のだそうです。この考えはKISTの国際理解に対する考えと共通するものがあります。

Roan と Raito (G3A)

コーディングへの生徒の興味・関心を高め、実社会でどのようにコーディングが使われているかを教えていただくために、2組の外部講師の方をお招きしました。2月22日（水曜日）には**Oracle Japan**の方が4年生に講演をしてくださいました。この講演ではコーディングが実社会でどのように活用され、私たちの生活に影響を与えているかについて詳しく教えていただきました。

2月23日（木曜日）には、LEGOロボティクスなどを取り扱っている**Afrel**という会社の方が来校し、3年生に向けたワークショップを開催してくださいました。生徒たちはロボット制御ソフトを使用し、LEGOロボットに送る基本的な指示を学びました。

コンピュータコーディングは、お子さんが自分の自由時間に楽しく学べる技術です。また、この学習を通して論理的思考力や問題解決能力、創造性も発達させることができます。スティーブ・ジョブスの言葉にもあるように、「考え方を教えてくれるコンピュータ・プログラミングを誰もが身につけるべき」です！

コーディングに興味のある生徒には、こちらのリンクから楽しいコーディングゲームが提供されています**code.org**。

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal

参考資料:
Porter, J. (2016, July 14). 4 Benefits Of Learning Programming At A Young Age. Retrieved February 19, 2017, from **https://elearningindustry.com/4-benefits-learning-programming-at-a-young-age-2**

本当のガラクタ・オーケストラ

新しい探求単元としてG4の生徒たちは楽器の素材の持つ特性について学び、リサイクル資材を使って楽器を製作しています。私たちのガラクタ・オーケストラをご期待下さい！

PYPニュース

"A Village"-「村で」

お子さんが学校-教育現場で築くのは、生徒と教師の間の関係のみだと思いがちですが、これは真実とは程遠いと言わざるをえないでしょう。ここKISTでは、伝統的に考えられているより遥かに多くの人達がお子さんの教育に関わっています。

エレメンタリースクールを例に取ってみると、教育者のチームがお子さんの毎日の教育に関わっています。一日の中で、お子さんが関わる「教育者」は指導者だけでなく、協力者や同調者であることも多いです。これはある意味お子さん自身の中に学び方を選び取る責任感を育てることにもつながるのではないでしょうか。

各クラスにはお子さんの言語能力にかかわらず、言語の発達と学習をサポートするためのスタッフが配置されています。日本語、体育、図工、音楽などの専科教員も生徒の自己表現への渇望を満たすための意見や方法をそれぞれの専門的視点から共有してくれます。

子どもたちや、その学習方法をよく知っているアドミニやオフィススタッフも、教育チームが教えきれないものや横断的カリキュラムからこぼれてしまう経験を提供するためのサポートを行い、子どもたちの学びに不可欠な援助を行ってくれます。

上記様々な支援を行い、お子さんと関わっている人々のリストを見て、お子さんの将来は安心であると思われるかもしれませんが、最も重要で欠かすことのできないメンバーをまだご紹介していません。それは、保護者の皆さんです。保護者の皆さんによる家庭からのサポートはお子さんに不可欠で、是非サポートの方法を模索していただきたいと思います。学習は結局のところ家庭に始まり、お子さんの価値観も家庭によって定まるものです。お子さんがどのように育つのかは、学校コミュニティ同様家庭の責任でもあるのです。

どのようにお子さんに良い影響を与えられるのかがわからなくなったら、是非、お子さんの将来への旅路を共にサポートする同士である学校コミュニティのメンバーにご相談下さい。格言にもあるように、「ひとりの子どもを育てるには村中みんなの知恵と力が必要」なのです。

Clay M. Bradley
PYP Coordinator / Elementary School Vice Principal

豆まき

今年も2月3日（金）が節分でした。K1、 K2そしてK3が行う予定で準備を進めていました。ところが、K3は悪いインフルエンザ鬼にやられ急遽クラス閉鎖になり、K1とK2だけの豆まきになりました。

今年は、豆のアレルギー等を鑑み豆を生徒達が紙粘土で作りました。

生徒たちは、豆まきの由来のお話絵本を見て、豆まきの歌を歌って、その豆を持って、準備万端待っていると、こわーい鬼が二人滑り込んできました。（靴下を履いた鬼だったので床が滑ったようです。）生徒たちは、豆で一生懸命「鬼は一外！鬼は一外！」と応戦しました。怖くて涙が出てしまったお友達もいたようですが、鬼は、もっと居たかったようですが、名残惜しそうに逃げていきました。生徒たちは、無事に鬼を退治することができました。「エイエイオー！」今年も皆元気にすごせそうです。

豆まきの行事について

病気や災厄を避けるための厄払をし、その年の幸運を祈るための行われ、お寺や神社では、盛大な豆まきが行われます。各家庭でも家の中と外に「鬼は一外！福は一内！」と大声で言いながら豆をまきます。

K1ミニ・エキシビション

これまで学習してきた探求単元 'How we express ourselves'（私たちはどのように表現するか）の締めくくりとして、K1クラスではこれまで作った作品を展示するミニ・エキシビションを開きました。この単元では、この単元で生徒たちは様々な方法で探求し、自身の創造性や考え、自分自身を表現してきました。生徒たちは、保護者や他の訪問の方々の前で話をすることで、自身の**コミュニケーション能力**を発揮しました。

白河かもめ保育園の園児たちもK1の作品を見に来てくれました。また、エレメンタリーの生徒や、先生方、それにセカンダリーの先生方も何人か展示を見たり、質問をしたりしてくれました。G5のバディーたちがK1の生徒たちを手伝って作品を並べたり、掲示板を用意してくれました。特に、掲示板に作品を貼り付けたり、テーブルに作品を並べる際は大活躍してくれました。

展示を見に来てくださった保護者の方には親子で答えるアンケートが渡されました。アンケートの質問には：**これは何ですか? 何を使って作ったのですか? 作って楽しかったですか? どの作品がいちばんお気に入りですか?** 多くの訪問者のみなさんからも同じような質問をいただきましたが、生徒たちは自信をもって答えることができました。

生徒たちは校内、校外からの多くの訪問者の方の前に立ち、自分の作品について説明するという新しい体験に挑戦することで、**挑戦する人**であることを体現しました。生徒たちは自身をどのように表現するのか、をテーマとした展示で、立派にホストとしての役割を果たしました。K1のクラスを訪問し、展示を見たり、生徒に質問をしたりしてくださった皆さんに感謝します。私たちは、大きなことを成し遂げたK1の生徒たちを誇りに思っています。K1の皆、よく頑張りました!

Claire Yoneyama
K1A Teacher

K2Aの紙の探求

探求単元、'How the world works'（世の中の仕組み）の一環として、K2Aの生徒たちは異なる材質やその特性について学びました。生徒たちは紙やその用途について探求を行い、再生紙と様々な手法・材料を使ってコラージュ作品を作りました。ベーキングソーダとお酢を使った実験と、その化学反応で生じた染みの散った紙を背景に使用しました。残った紙で、折り紙の動物も作りました。生徒たちは紙を折ることで形状が物理的に変わるということにも気づきました。また、紙を切って木や花も作りました。日本語の授業では折り紙でより複雑な物を作り、コラージュ作品に加えました。最後に、生徒たちは紙の上に絵を描くことで自分たちを表現しました。製作中、生徒たちは紙をどう使うかや、その特質をどう作品に活かすかを検討することで自分たちが**thinkers**（考える人）であることを示してくれました。

Catherine Wells
K2A Teacher

K1とK2ニュース

セカンダリーの生徒たちがアフターケアのお手伝い

KISTでは放課後も色々な活動を提供しています。そのひとつにお仕事をされている保護者のために、K1からG2までの子ども達を預かるAfter Careがあります。子ども達は18時半までの間、幼児部門の教員と一緒に過ごします。ただし、15時半から17時までの間はセカンダリースクールの生徒たちがサポートをしに来てくれます。この生徒たちはセカンダリースクールのChildcare Committeeのメンバーです。Childcare CommitteeはMr Nakadeのもと、G11年生のSeinaとSelenaが中心となり運営されています。

After Careをセカンダリーの生徒たちと行っていくというのは今年度初めての試みです。セカンダリーの最終コースであるDPコースに進んでいる生徒たちは、主流となる6科目の授業とは別に、追加で3科目履修することになっています。その一つが 'CAS—Creativity、Action、Service' という履修科目になります。このChild Care 委員会の働きはCreativity、Action、Serviceの一環となります。

このChild Careの一端を担うことでメンバーであるセカンダリーの生徒たちは大きな責任を担います。セカンダリーの生徒たちが遅れて参加したり、生徒たちがこの機会を自分たちのあらたな交流の場と捉えたりしている場合、幼児部門の教員はもっと人手がいることになります。セカンダリーの生徒たちは大いに私達を助けてくれております。また、私達の小さな生徒たちにとっても、学習意欲旺盛なKISTのMYP、DPコースの生徒たちと過ごせることはとても良い学びの機会となっております。この素晴らしいアイディアを提案してくれたMr Jonesと実際に運用までの尽力をしてくださったMr Yoshiharaにこの場を借りて、感謝いたします。

World Cultures Day

先日のWorld Cultures Dayではたくさんの保護者の方にご協力をいただきましたことを、この場で改めてお礼申し上げたいと思います。

World Cultures Dayの当日はK1からK3の子ども達すべてがBake Saleの品物を楽しむことができました。Bake Saleの品物は大きな袋にたくさんお菓子が入っていたり、少なくても手の込んだ手作り品であったりしました。それらすべての品が、生徒たちにより多くの国の食べ物に触れる機会を与えてくれました。また、Storytellingの時間には、お話だけでなく、読み手の方が身につけていた衣装からもそれぞれの国の文化を垣間みることができました。そして、最後にK1クラスでは中国からきた家族の方に中国では大変大きな行事である、Chinese New Yearに関して、ビデオを使ったお話とそして一緒に餃子を作るという企画をしていただきました。子ども達はビデオを見てから餃子作りに励みました。100個以上事前に準備された餃子は教室内で調理され、子ども達は自分たちの作ったものを持ち帰りました。

世界各国からKISTに通っている子ども達にとって、身近な保護者の方からのサポートは、自分たちのお友達の国をより親しいものと感じさせ、その国について学ぶ意欲を増進させてくれます。KISTでの様々なイベントは保護者の皆さんの協力なしには成功することができないとともに、生徒たちにとってこれ以上ない学びの機会となっています。本当にありがとうございます。

Eri Ozawa
Early Childhood Coordinator
(K1, K2) / K1B Teacher

The Bookworm Reading Challenge

これまで、G4Aは**The Bookworm Reading Challenge**を行うことで読解能力を向上させてきました。学年度の始めから、このクラスの生徒達の読書に対する貪欲さには感心させられてきました。あまりにいつも読んでいるので、時として本を読まないように、と指示しなければならないほどです！しかし、次第に、生徒たちは貪欲に読書をするにもかかわらず、様々なジャンルの本を幅広く読んでいるわけではないことに気づきました。調査を行った結果、面白く、冒険活劇たっぷりのグラフィックノベル（単行本）を読んでいる生徒は非常に多くいるのに対し、文学作品や詩集に手を伸ばす生徒はほとんどいないということが明らかになりました。

Bookworm Challengeでは30日の期間中に10の異なるジャンルの書籍を読むことが求められます。Gold Awardを受けるためには全てのジャンルの本を読まなければならず、Silverのためには最低5ジャンル、そしてBronzeのためには最低3つのジャンルを読破しなければなりません。10のジャンルは調査結果を元にMs Hynesと相談して決定し、更にMs Hynesの提案でより熱心な読者にはMerit Award (Gold Awardとサクラメダルの本の複合賞）も設けました。

10のジャンルは:
- 伝記
- 詩集
- ハウツー本
- 英語以外の言語の本
- 伝統的なお話・民話
- 文学作品
- 友だちに勧められた本
- エレメンタリーのサクラメダル本
- ミドルスクールのサクラメダル本
- 宝くじ本（ランダムに選ばれた本）

生徒は毎日最低15分間は授業時間内で読書をします。もちろんこの時間以外でも家で読書をする生徒も多いです。30日の期間後には生徒が本当に読書を終えたかを確認し、個々の読書内容をより深く理解するために詳細なインタビューを行います。この体験を終えた生徒たちの感想は非常に好ましいもので、ほとんど全ての生徒がこれまで思っていたよりずっと文学作品を楽しんだことがわかりました。生徒の一部はこれまで文学作品とはどのようなジャンルの本なのかを知らずに敬遠しており、「昔に」書かれた作品を楽しく読んだこともわかりました。特に人気があったのは:「Wind in the Willows」(邦題:たのしい川辺)、「Black Beauty」（邦題:黒馬物語）、「宝島と秘密の花園」でした。

生徒の全員がSilver Award以上を受賞し、4名がMerit Awardを受賞したことを非常に嬉しく思いました。この経験をきっかけに、生徒たちが幅広い読書の楽しみと利点に気づき、これからもこの習慣を続けていくことを願っています。

Bethan Thomas
G4A Homeroom Teacher

REMINDER

MATHS DIAGNOSTIC TESTING

GRADES 4-5...

May 29th, 2017

GRADES 6-10...

June 5th, 2017

無料の英数教材

以下の無料ウェブサイトに登録して、1000以上のKey Stage 3や、GCSE数学の教材やビデオにアクセスしましょう。セカンダリースクールの診断テスト準備や復習に最適の教材があります！

http://mathswebsite.com

決断と結果

私たちは毎日何らかの決断しています。朝起きた瞬間から、いつ起きだして、何を食べて、何を着て、どこに、いつ、どうやって行って、誰と遊んで、何を話して、など、眠る瞬間まで常に決断をしています。幾つかの単純な事柄に関する決断は意識すらしていないかもしれません。しかし、これら無意識に下している決断でも私たちにとって重要なものであることを理解する必要があります。私たちは時に、自ら下した決断には結果が伴うということを忘れてしまいがちです。私たちを取り巻く環境はすべて自身の決断の結果です。悪い決断を下してしまった結果、悪いことが起きても、どうすることもできません。ですから、行動に移す前によく考えることが必要なのです。

私は今G3の生徒たちとのコミュニティサークル活動で上記、決断と結果の問題に取り組んでいます。Mr Green、Mr Sullivan、そしてMs Watanabeのサポートを頂き、生徒たちは自らの決断力を評価し、その結果何が起こるかを予測できるようになっています。そしてここで得た能力を活かし、最良の決断を行えるようになりました。

また、エレメンタリーのホワイエには「私は賢い決断をしました」というタイトルの掲示も行いました。生徒たちはMs Catが作ってくださったきれいな蝶の形をした紙に自分の賢い決断とその結果について書き、大きな台紙に貼り付けます。K2Aの生徒たちもIB学習者像に沿った最良の決断が出来るよう、現在の探求単元のストーリーテリングの要素の一環で行動の結果について学んでいます。

3月にはG3とK2Aの生徒たちと一緒にこの問題についてのアセンブリーを予定しています。次のニュースレターではアセンブリーの様子を皆さんにご報告できると思います。

Kana Furnival
Student Conduct Coordinator (Elementary)

年賀状による募金活動

今年も昨年に引き続き、Winter Concertと冬を祝う活動の一環として年賀状による募金活動を行いました。

生徒たちは今年も家族や友人たちに送るための年賀状を熱心に作成・デザインしました。

この活動の結果、12,240円の募金を集めることができました！この募金は**Art in All of Us** という団体に贈られ、その活動をサポートすることになります。**http://artinallofus.org**

この場をお借りして、活動をサポートしてくださった先生方、エレメンタリー生、そしてG11の生徒たちに感謝したいと思います。そして、本活動に賛同し、サポートくださったKISTコミュニティの皆様にも感謝致します。皆様の善意は世界中の美術や表現を愛する子どもたちのためのプログラムに活用されます。

Helen Campbell
PYP Art Teacher

エレメンタリーELS

母国語書籍の推薦依頼

先日、KISTではWorld Cultures Dayを祝い、通常の授業ではなかなか取り扱えない自国の文化や母国語を共有しました。このイベントの一環として、KIST図書室では母国語書籍の充実を目標としたキャンペーンを立ち上げ、**皆さんのご協力を**是非お願いしたいと思っています。図書チームではコミュニティの保護者の皆さんに子供の頃、そしてティーンエイジャーの頃好きだった母国語の本をKIST蔵書に推薦していただきたいと思っています。これにより、自身のお子さんや他のお子さんたちにも、同じ母国語体験や、図書室で英語以外の言語の本に触れる機会を提供できます。

母国語での読書はそれ自体に大きな意義や楽しみがありますが、更に、英語でのリテラシー発達においても大きな役割を果たします。バイリンガル教育研究によると、母国語の習得・発達は英語力の発達にとって障害になることは一切なく、「母国語で習得した読解力はそのまま英語での読解能力に互換され、より高いレベルでの英語読解能力へと発展できる」と言われています。(E. Garcia, 2008)

是非これを機会に生徒たちの言語・読解力習得ご協力下さい。特に、東京在住で母国語の本の入手が難しい方にとって、KISTコミュニティでの母国語蔵書拡充の取り組みは大きな意義を持つことと思います。

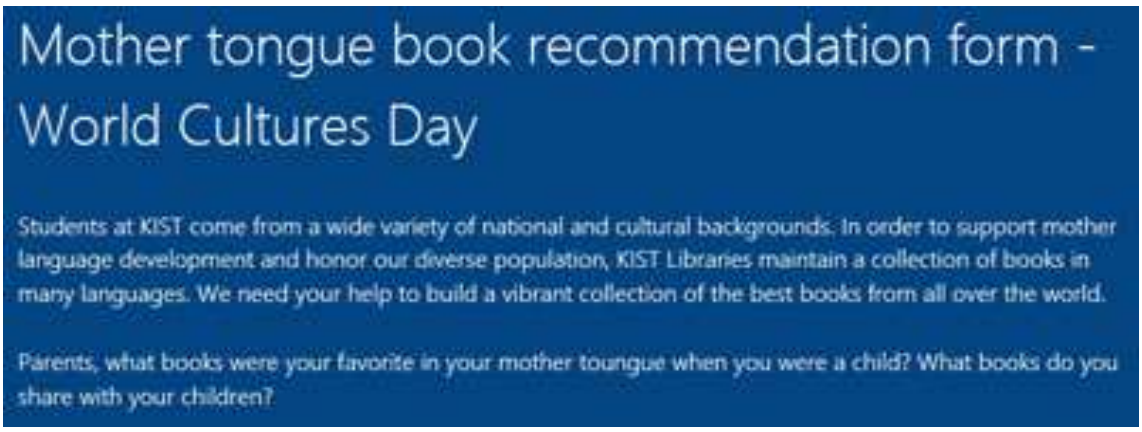
Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor

参考資料:
García, E. (2008) *Bilingual Education in the United States*. In Altarriba and Heredia (Eds.), An Introduction to Bilingualism: Principles and Practices. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates. Pp. 321-343.

Muskaan(G5A)がヒンディーで、Dawon(G4B)が韓国語で読書している所

Nikol、SelinとAi(G5A)がロシア語、トルコ語、タガロク語で読書をしている所

Liwei(G3B)とAndrew(G4A)が一緒に中国語の本を楽しんでいる所



母国語の本をご推薦頂ける方はこちらのElementary Library / Library Media Center Moodle ページにご記入下さい。
http://bit.ly/2IxC4a6

KIPSニュース

KIPS P2とKIST K1の交流会

2月16日木曜日、私たちは初めてのKIST K1クラスとKIPS P2クラスの短い交流会を持ちました。この木曜日の時間帯はK1クラスにとってはG5BクラスとのBuddy Readingの時間になっています。ただ、G5クラスの生徒達はPYPカリキュラムの集大成でもある、G5 PYP Exhibitionにむけて多忙な時間を過ごしており、K1クラスとの交流がしばらくおやすみとなっています。その代わり、この貴重な時間を使ってK1クラスではKIPS P2クラスの子ども達を招待することにしました！

K1クラスの子ども達は、今ではすっかりクラスの流れもわかり、色々なことが自分たちでできるようになり、自分たちより小さいP2クラスの子ども達を招待することにとてもワクワクし、G5クラスのような大きなお兄さん、お姉さんとなれるこの機会を心待ちにしておりました。実際の月齢や身体の大きさはそれほど変わらないP2クラスの子ども達とK1クラスの子ども達ですが、K1クラスの子ども達にとってKISTは自分たちの学校であり、K1クラスの子ども達は自信をもって、P2クラスの子ども達に、お手洗いの場所や、手の洗い方、大きな校庭への道を教えてあげていました。

残念ながらお天気の都合で、先週予定されていた交流会は中止となりましたが、3月にまた交流会を企画しています。KISTの中では一番小さなK1クラスの子ども達も、人の事を思いやる気持ちや自分の行動に責任を持つことを、このような機会の中から学んでいます。

KIPSとKIST

1月13日金曜日、KIPSでは保護者一斉引取避難訓練が行われました。子ども達は午後のおやつの時間にまずは乾パンを食べてみました。それから地震の訓練をしました。防災頭巾をかぶり、保育者におんぶされたり、手を引かれたりしながら、第一避難場所であるKISTまで避難してきましたKIPSから避難してきた全員がKISTのMPRに集合し、みんなで地震のお話を聞きながら、保護者の方の引取を待ちました。いつもと違う雰囲気に緊張し、保護者の方のお迎えとともに、泣き出してしまう子ども達もいましたが、無事に大きな避難訓練を終えることができました。

また、KIPSの子ども達は時折、KISTの大きな校庭で走り回ることがあります。先日の2月のお休みの際も、KIPSの先生たちは誰も生徒のいないKISTの大きな校庭にKIPSの20人近い小さな子ども達集団を連れてきて、思い切り広々とした校庭で子ども達を遊ばさせていました。二日間とも少々冷たい風が吹いていましたが、太陽が陰ることもなく、転んでも痛くない、柔らかい人工芝の上で子ども達は喜んで遊んでいました。

KISTとKIPSは別々のキャンパスではありますが、一緒に色んなことに取り組んでおります。

Eri Ozawa
Preschool Coordinator

キッズベースボールスクール

チャリティキッズベースボールスクールが2016年12月11日日曜日に神宮外苑室内練習場にて開催されました。KISTエレメンタリースクールから8名の生徒が参加しました。ソフトバンクホークス監督工藤公康さんが主催し、野球をする機会の少ないインターナショナルスクール生のためにと毎年インター枠として招待して頂き今年で8回目となりました。

この時期外苑前は見事な黄色に紅葉した銀杏並木を見る人で賑わっており、その中を通り抜け会場へ向かう生徒たちの足取りも自然と軽やかに。会場へ着くと他の野球チームの子どもたちが皆揃いのユニフォームを着て準備運動を整然としている姿を見てKISTの生徒も少し緊張気味に。

工藤監督の挨拶のあと5人の若手現役選手がキャッチボールを直接指導。その中には一昨年度のドラフト1位投手の姿も。メインの指導はピッチャー、キャッチャー、外野、内野に分かれてのグループ指導。幸運なことにピッチャーのグループは工藤監督自ら指導して頂くことに。監督自身の長年の経験を活かしたボールを投げる際、体に余計な負荷がかからない、怪我をしにくいフォームを身につけるための練習は小学校低学年でもできる斬新なものでした。それはボールを使いません。プラスティクでできた軽いカラーバットを上から「ビュッ」という音が出るように振り下ろすという練習を30分続けます。始めはフォームが悪く音が上手く出ない子もだんだんといい音がするようになり、実際に投球練習をしてみることに。するとキャッチボールでは上手く投げることができなかった生徒もきれいなフォームでストライクを投げられるようになっていました。スポーツバイオメカニクスの観点から考えられた練習は生徒たちにとって有意義なものでした。

他のグループに参加した生徒もプロの選手たちから、たくさんの刺激を受け学んだようでその目は輝いていました。最後には参加者全員にサインボールが配られ皆笑顔で会場を後にしました。抽選会でサイン入りグローブやマスコット人形、ベースボールキャップなどをゲットした生徒も。今年参加できなかった人、また参加したい人は、また来年もあるかもしれないので楽しみにして下さい。

Akihiko Nogami
Baseball Coach

World Scholar's Cupを振り返って

GaOn (G9B)

Nimit (G9B)

Aditya (G8B)

World Scholar's Cup（WSC）のための準備段階から、（Yale大学で2016年11月18日から21日まで開催された）決勝トーナメントへの参加までの全ての過程が思い出深く、素晴らしい経験でした。僕のチームメンバーだった、**Nimit**（G9B）と**Aditya**（G8B）もこれに同意してくれると思います。準備段階の間ずっと、僕は多岐に亘る分野の知識を得る喜びを感じることができました。そして、論理的思考力やディベート、論説文の書き方などのスキルを磨くことができました。

WSCでの出題範囲は科学、法律、歴史、文学、芸術と多岐にわたるため、現代社会で話題とされているあらゆる分野の問題に触れることができました。また、実際の競技では世界中から参加した他のチームとの討論や意見交換を通し、より自分の知識の幅を広げることができました。僕たちは互いの意見や価値観をもとに真剣な議論を重ねることによってより洗練された考えや価値観へと昇華させることができました。僕自身この経験を通してより深い知識と、国際的な考え方を持つことができたと思っています。

この経験を通してより成長する機会を与えてくださった先生方に感謝するとともに、他の生徒の皆さんにも、是非、優れた「scholars：学者」になれるよう、この活動に参加することをお勧めします。

GaOn (G9B)

睡眠不足

6時間睡眠と8時間睡眠の差ー睡眠時間を増やすには

学習内容の増加に伴い学習量も増え、また、テクノロジーの進歩に伴い気を散らせる要因も増加しているため、生徒たちの睡眠時間は年々減少する傾向にあります。多くの生徒は少ない睡眠時間でも、パフォーマンスを低下させずに動くことが出来ると主張しますが、研究の結果、これは不可能であることが分かっています。

米国・ペンシルベニア大学病院の睡眠・時間生物学研究所長David Dingesによると、常に睡眠時間が6時間台である人は、8時間睡眠を取っている人に比べ、長時間集中力を保つことができなかったそうです。更に、6時間睡眠のグループは、日々（過去の）出来事に対する記憶力、思考の流暢性、速さにも緩やかな低下が見られたそうです。8時間睡眠のグループが一度読んで記憶できることが6時間睡眠グループは複数回繰り返し読まないと同じだけの情報を理解・保持できませんでした。米国・ワシントン州立大学、睡眠及びパフォーマンス研究センター所長のGregory Belenkyはこれら認知力欠損について:「最初は気づかないでしょう。けれど、5日・7日と時が過ぎるにつれ、明らかになってきます。あまり思考を必要としない仕事についているのでない限り、パフォーマンスを犠牲にして、起きていることになります」と述べています。(Jones, "How Little Sleep Can You Get Away With?")

最も興味深いことに、睡眠に関する研究の被験者たちは自身のパフォーマンス評価をするように求められると、眠気を感じているにも関わらず、自身は新しい睡眠パターンに順応し、パフォーマンスに影響はないと答えるのです。しかしながら、研究結果は正反対のことを示しています。ですから、私達の多くが望み、そして生徒たちが信じるように5時間睡眠に体を順応させる、または遺伝的に定められた睡眠時間より短い時間で大丈夫になるよう訓練することはできないのです。更に付け加えると、睡眠時間が不足している人たちは自身に必要な睡眠について判断する力に乏しいとも言えるでしょう。(Jones、"How Little Sleep Can You Get Away With?")

> ・・・5時間睡眠に体を順応させる訓練することはできないのです。

では、どのように睡眠時間を増やすことが出来るのでしょうか？生徒の皆さんが定期的に睡眠時間を増やすことが出来るためのヒントをいくつかお伝えします。

1 就寝前に電子機器のスイッチを切る

就寝の1時間ほど前には、明かりを暗くして、すべての電子機器のスイッチを切りましょう。眩しい明かりは脳に覚醒の信号を送るので、できるだけ早く脳を休ませることが必要です。就寝前にメールチェックなどをすることを防止するため、就寝時や夜間は電子機器を寝室外に置くことが理想的です。

2 週末にも通常の睡眠・起床時間を維持する

通常より遅くまで起きていたり、寝ていたりすることで、体内時計を狂わせ、体に時差ボケと同じような影響を与えてしまします。

3 定期的な運動習慣

定期的に身体を動かしている人は良質な睡眠が確保できているという研究結果があります。あまり運動をしない人は毎日10分歩くことで睡眠の質を改善することができます。

4 スムーズな入眠のための習慣を確立する

すべての人のリラックス法は異なります。そのため、読書、入浴、兄弟姉妹とのおしゃべりなど、リラックスし、スムーズに眠れるための習慣を見つけましょう。

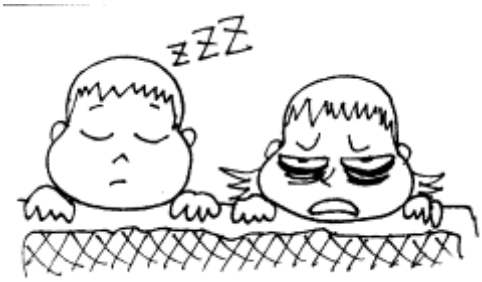
5 午後のカフェイン摂取を控えましょう

カフェインは皆さんが思うより長く体内に留まります。専門家は、カフェインが睡眠を妨げないよう、午後早い時間から摂取を控えることを勧めています。

Momoko Aoe
Student Care Coordinator (Secondary)

参考資料:

- Jones, Maggie. "How Little Sleep Can You Get Away With?" *The New York Times Magazine.* http://www.nytimes.com/2011/04/17/magazine/mag-17Sleep-t.html
- Klein, Sarah. "Sleep and Exercise: Vigorous Exercisers Report The Best Sleep, Poll Say." *The Huffington Post.* http://www.huffingtonpost.com/2013/03/04/sleep-exercise-sleep-in-america_n_2784457.html 4 March 2013
- Klein, Sarah. "37 Science-Backed Tips for Better Sleep." *The Huffington Post.* http://www.huffingtonpost.com/2014/03/17/better-sleep-tips-best_n_4958036.html

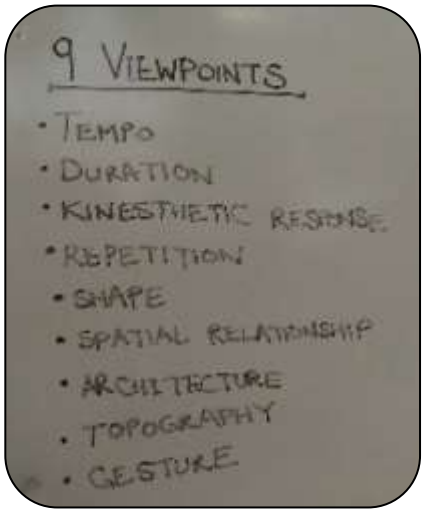


集中演劇ワークショップ

集中演劇ワークショップは生徒の演技スキルを中心としたワークショップです。演劇に関するあらゆることを取り扱います。演劇を通してどれだけ自己表現をすることが出来るかについて知り、他の生徒達とも交流を深めることが出来る素晴らしい機会を提供してくれます。

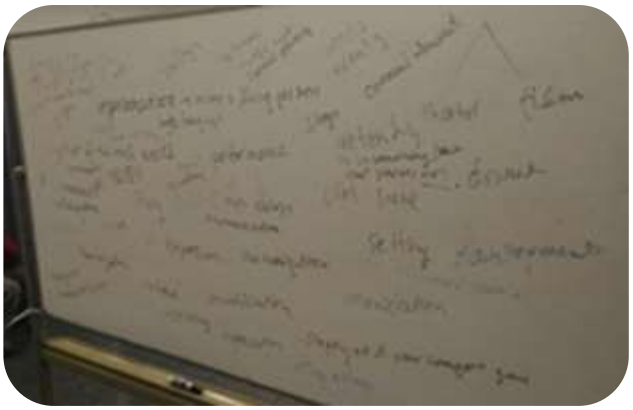
ワークショップの期間は2週間で、私達はその期間中に自分たちにも、そして観客にとっても楽しめる劇を作り上げました。また、演劇の基礎や、演じるということの本質についても学びました。私たちはたった2週間でどのようにこれだけのことを学び、演劇の能力を身に着けたのでしょう?これは私たちだけの力ではなかったのです！NYからはるばる来てくださった2名の素晴らしい才能を持った演劇の先生方が私たちに演劇について教えてくださったのです。先生方はたった2週間で、私たちの演じる力を純粋な感情の発露に昇華させKISTでの演劇環境をより盛んなものにし、私たち全員が感情移入できる劇を作り上げるお手伝いをしてくださいました！先生方が参加された映画が2017年SXSW映画祭にノミネートされています（先生方の出演作品はこちらからご覧いただけます elofilms.com）。

このワークショップでは全員にスポットライトを当てつつもチームワークを保つことができました。お互いを助け合ったり、今はまだはっきりしていない才能を褒め合ったりすることで、誰も取り残されたり、自分にはできない、などマイナスの感情を感じることはありませんでした。ワークショップでの皆のお気に入りは即興芝居でした—その場で背景や人物の性格付けをして演じるのですが、最後は必ずハチャメチャな終わり方をすることになってしまうのです。私たちは非現実的とも言える個性的な登場人物に感情移入して演じました。そして最後にはありえないと思われた変わった人物を個性的で魅力的な人物に仕立て上げることが出来るのです。このワークショップがとても和やかだった理由はここにあるのだと思います。どんなに変でも、それが役柄だから誰も変に思ったり気にしたりしないのです。ですから、私たちのお気に入りは即興芝居か、最後にもらったドーナツのどちらかです。



是非また8月にワークショップが開催され、ここで得たスキルを活用できたらと考えています。皆さんも是非ワークショップへの参加を検討してください。皆で協力すると、すごいことができますよ。

Thilo (G8B)



G12森美術館でのTOK校外学習

人類は宇宙をどのように捉えてきたのでしょうか？宇宙の知識のどこまでが信仰に基づいたものなのでしょう？それとも…？

先日G12の「知識の論理」の授業の一環として六本木の森美術館での校外学習を行いました。森美術館で開催されていた「宇宙と芸術展」では化石の破片から曼荼羅、そして日本最古のSF作品とも呼ばれる「竹取物語」の展示が行われていました。

美術館での校外学習の前に、信仰や想像力と言った知識の得る方法に加え、美術、自然科学、数学や宗教などの分野についても学習しました。授業では私達の知識、何故・何をもって「知っている」といえるのか、について多くの議論を重ね、「知識」に対する様々な視点を得ることができました。授業で学んだこと全てが美術館の展示に反映されていて、私達の宇宙に関する知識に新たな探求への扉を開いてくれました。知識の探求者として、クラスメイトの何人かはこのページに校外学習に関する意見を寄せてくれました。

今回の展示は、知識がいかに横断的なものであるかということを強く示すとともに、私たちの宇宙に対する知識を深める一助となりました。非常に濃密なDP学習から少しだけ離れることができたのも嬉しかったです。これからTOKの「専門家」となれるのを楽しみにしています！さて、最後にこの記事を皆さんへの質問で終わりたいと思います。：芸術とはどこまでが'想像された現実'なのでしょうか？

Moana (G12A)

今回のTOKでの森美術館への校外学習は授業で学んできた事を異なる環境で更に深めるための貴重な機会となりました。「宇宙と芸術展」と銘打った展示会では私達を取り巻く世界への様々な異なる視点と、何故物事が現在の形に発展したのかについてを問いかけ指し示すものでした。一度見ただけでは宇宙とのつながりを感じることができなかった作品も、解説を読み、「TOKの感性」を通して改めて見直すと、意味がわかるようになるのがとても興味深かったです！

—**Armina** (G12A)

科学と美術の統合にはとても想像力を掻き立てられ、得るものが多かったです。この校外学習ではTOKを学ぶ生徒として考えさせられることが多かったです。そして、展示もとても楽しめました！

—**Hardik** (G12B)

多くの領域や知識の分野にまたがり、私達の知識がいかに横断的なものかを示している今回の展示から得たものはとても大きかったです。とても貴重な体験でしたし、またこのような展示が行われる機会があれば是非見に来たいです！

—**Mirabelle** (G12B)

ART

Artscape

Yuuki (G10A)

Artscapeは今年で35年目！となる関東地区のインターナショナルスクールに在籍する生徒たちによる美術作品展示会です。今年も関東地区の12の学校からG5からG12までの生徒の作品が麻布子ども中高生プラザで展示されました。

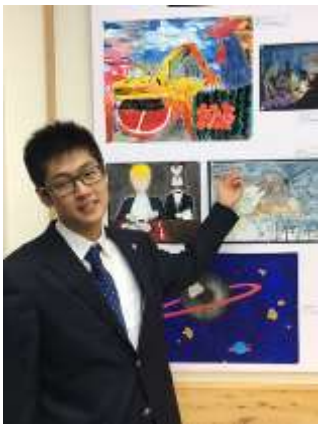
このような展示会の良さは、何と言っても各学校や出品者の強みを活かした作品や手法の多様性にあります。今回の展示会では50国以上の国籍を持つ出品者の作品が展示されました。

KISTからも、G5からG11までの生徒の幅広い手法、創造性を活かした作品を出品しました。他のインターナショナルスクールと協働し、多才な生徒たちと交流できたことは得難い経験でした。

創造性あふれる参加者の皆さん、よく頑張りました！

Luke Jones
MYP/DP Visual Art Teacher

Li Ran と Chae Hyun (10A)



Qinghong (G10A)

ニューフェイス

KISTでは、前回の*The Comet* 発行後に新しいスタッフ2名を迎えました。エレメンタリースクールK3クラスの新しいTAとして加入した**Dominic Arnold** と、KIPSの0歳及び1才児クラスであるP0/P1の保育士として加入した**Yoshimi Machida** です。

学校コミュニティを代表し、二人にとって、KIST/KIPSでの勤務が充実した楽しいものとなるよう、祈っています。

Dominic Arnold
Teaching Assistant
(K3)

Yoshimi Machida
Preschool Teacher
(KIPS P0/P1)

newfaces

電池の危険性について

KIST コミュニティの皆様、

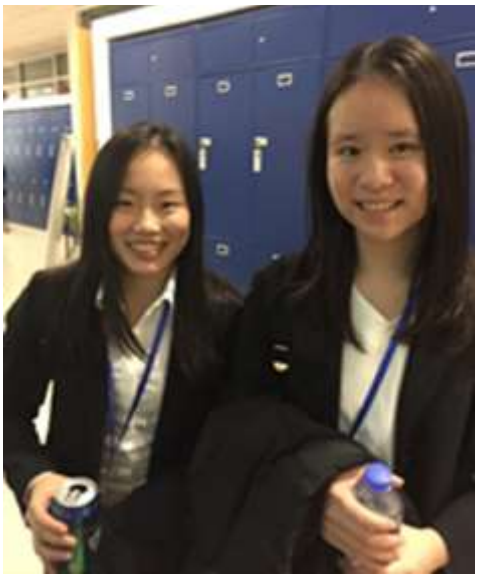
コミュニティの多くの皆様のご家庭に小さなお子さんがいらっしゃるということを踏まえ、小さい子供に対する電池の危険性について注意喚起をしたいと思います。先日、私の義姉の、可愛い盛りの2歳になる姪が、電池の誤飲が原因で亡くなったそうです。近年、小さなボタン式電池は多くの家電に使用されていますが、これらは誤飲された場合大出血を引き起こす可能性があります（**電池の誤飲に関するBBCの記事です**）。しかし、この重大事故は電池を小さな子供の手の届かないところに適切に保管し、子どもの電池式おもちゃの電池入れにしっかりとしたカバーがついているかを確認することで防げます。是非、この機会に家の中を点検し、子どもの手の届くところに電池が出ていないかなどを確認していただきたいと思います。

Matthew Archibald
G5A Teacher

MUN会議 in 上海

2017年の1月19日から22日まで、G9からG11のKIST模擬国連チームは上海Concordiaインターナショナルスクールで開催された第8回CISSMUN会議に参加しました。KISTチームは世界中から参加した1000人近くの他校の代表者と、オランダとケニア代表として総会と人権委員会に参加しました。

今年の会議のテーマは "Responsibility to Protect"（保護責任）で、各委員会では恵まれない人々を援助するための方策や行動についての話し合いを行いました。会議の管理者であるErik Paulsonさんは、この会議に参加した生徒たちが「他者を援助するための第一歩を踏み出し、相互扶助の倫理観を育てていくことを希望する」と話されていました。CISSMUNの目標、そしてミッションは、様々な背景を持つ生徒たちがリサーチ、観客を前にしたスピーチ、交渉能力に磨きをかけながら、世界の一員としての真理に至り、自立心のあるリーダーとして成長することです。



Ayumi (G10A) と Meng Ting (G10B)

Naman (G10B)

参加者:

Akino (G9A)
Marlinah (G9A)
Heizo (G9A)
Kenzo (G9A)
Lilya (G9B)
Shridhar (G9B)
Gautham (G10A)
Krisha (G10A)
Ayumi (G10A)
Igor (G10A)
Naman (G10B)
Meng Ting (G10B)

KISTのMUNチーム

Igor と Krisha (G10A)

MUN Scrimmage 2016

今年も11月26日（土曜日）にKISTの模擬国連クラブが主催したMUN scrimmage は大成功に終わりました。今回のscrimmageには、British School in Tokyo、St Mary's International School、Tamagawa Academy、Yokohama International School、そしてKISTの5校が参加しました。

高等部のMUNでは82名の代表者が様々な事柄について議論し、初開催の中等部のMUN scrimmageには15名が参加しました。中等部の代表者たちは北朝鮮の核問題に対する決議を行い、高等部代表者は外国人恐怖症と戦い、宗教的、人種的少数派、そしてヨーロッパ及び米国の難民・移民の人権に関する決議と、女性の、資産・財産、財政サービス、相続、資源への平等な所有権に関する決議の2点を行いました。

Jiu (G11B) と **Natalie** (G11A)

私が最初にMUNの会議に参加したときのことを今も鮮明に覚えています。私より年上でとても真面目な表情をした人たちでいっぱいの室内。そこでズラッと並んだ座席を見上げ、落ち着いて自信たっぷりに会議に参加し、運営する人たちに感心していました。その時には2年後に、自分がかつて憧れた人たちの立場にあることなど想像もしていませんでした。2016年度のMUN会議は他でもない私自身が初めて議長を務めた会議として、忘れられないものになるでしょう。最初は、今まであったこともない多くの生徒達を前に話をすることに恐怖すら感じました。それでも次第に観客の存在にも慣れ、落ち着いて自分の役割を果すことが出来るようになりました。過去2年間と、議長として参加した今年で異なっていたのは、私が前回よりも広い視野をもって議論を聞くことができたということです。これまでは代表者の議論を聞きながらどちらの意見を支持するかを常に考えていました。もちろん、今年も議場を管理するというプレッシャーはあったのですが、どちらかの意見を支持し、そのために他方に質問の集中砲火を浴びせる必要がない中で議論を聞くことはとても興味深い経験でした。議長の役割は議場の管理です。というのも、時として代表者が感情的になったり、攻撃的になったりして終わりのない議論のための議論に陥ってしまうことがあるからです。これは会議を無駄に長くするだけでなく、他の議題が検討されることへの妨げにもなってしまいます。また、初めての参加者を萎縮させ、彼らが発言する妨げともなってしまう可能性があるのです。その他にも議長の役割として指示出しや出欠管理、代表者の発言回数の記録、投票数の確認、そして最も大切な、すべての代表者が会議中最低一回は発言するよう促すという役割があります。

Natalie (11A) – Committee Chair

MUNクラブに参加するのは今年で2年目で、MUN scrimmageへは今年が初参加でした。参加するまでは、色々な学校からの参加者たちと形式張らない、楽しい議論を行うのだと考えていました。なので、実際に参加してみて驚きました。多くの代表者たちはこれまでクラブで行っていたものと全く違う、とても積極的で表現豊かな議論を展開していました。要するに全く次元が違うすごいものだったのです。もしかして私にとって初めての参加だったこともあるのかもしれませんが、殆どの時を呆然と過ごし、議論のもっとも重要な場面でついていけずに少し混乱していました。それでもこのイベントに出来る限り積極的に参加したことに悔いは一切ありません。この経験は私が想定していたよりずっと楽しく、大いに触発されるものでした。来年は今年と同じか、更に素晴らしく、楽しい経験になると期待していますので、KISTのすべての論客に是非参加することを心よりお勧めします。

Ji Hye (G9A) – High School MUN Delegate

私のMUN での経験はとても楽しく、最近論じられている事柄について多くを学ぶことができました。MUNはコミュニケーションや議論・討論のスキルを向上させられるだけでなく、他校の生徒とも交流できるまたとない場です。皆さんにも是非世界を別の視点から見ることが出来るMUNに参加されることをお勧めします。

Nishi (G7B) – Middle School MUN Delegate

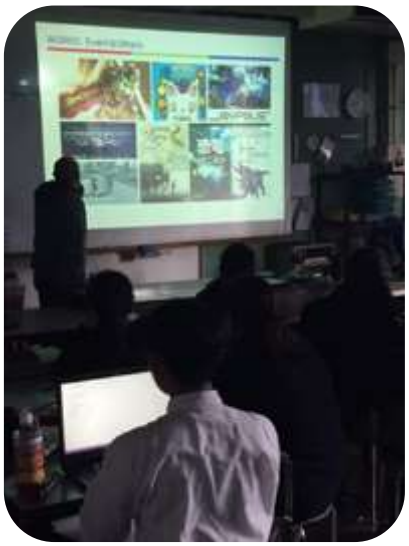
実社会での経済学

セメスター1にG9の生徒たちはI&Sで経済学入門の単元を開始しました。基本的な経済問題の概念や、需要と供給の法則、需要と供給における非価格競争について理解した後で、生徒たちは学んできた理論を応用し、新たなビジネスプランの売り込みをすることになりました。テレビシリーズ、Dragons' Den と Sharks' Tankに触発され、生徒たちは投資家に向けたビジネスプランの作成と発表を行うことにしました。生徒たちが抽象的な経済概念を実社会の状況と結び付けることをサポートするために、クラスでは2つの校外学習を企画しました。一つは実際には校内で行われたもので、Polygon Pictures Inc.のHead of International Business Development and Licensing、Mr Jack Liangをお迎えしました。また、もう一方は、日本橋のNational Australia Bank (NAB) への校外学習で、実際に銀行家の方の前でビジネスプランを発表させていただき、ご意見をいただくことができました。G9の生徒たちがsummativeで最終的な発表を行った時にはこれらの経験から多くの着想を得ることができました。以下は担任教師の振り返りです。

POLYGON PICTURES

Ms Evelyn Pangからの振り返り

G9のI&Sで経済の単元を教えるのは今年で2年目になります。そして、G9の生徒たちの学習意欲をより高めるために指導する事が出来ることを嬉しく思っています。今年、特にうれしく思ったのは、Ms Snowと協力し、生徒と、経済理論を日々実践されているビジネスパーソンの方々との交流機会を企画する事が出来たことでした。G9の合同授業に東京のデジタルアニメーションスタジオに勤務されているMr Jack Liang (Producer, Head of International Business Development and Licensing) をお招きし、お話をうかがえたことは、生徒たちと、私自身にとっても目からうろこの体験でした。生徒たちが積極的に質問をし、Mr Liangのお話に関する議論を戦わせているところを見て、実生活に根付いた学習の価値をしみじみと感じました。今回、生徒たちが学んだことと、実社会との関連に気付き、知識が彼らの中に根付き、芽吹き始めるきっかけを作ることができたと感じ、心から満足しています！



Mr Jack LiangがG9の生徒たちにPolygon Picturesの紹介をしてくれました。

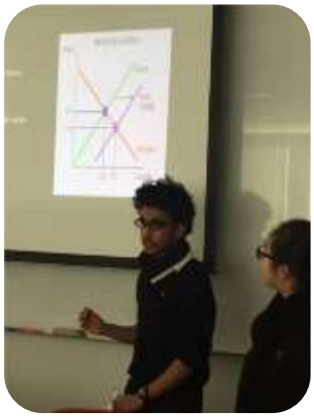
NATIONAL AUSTRALIA BANK

Ms Geri Snowからの振り返り

Ms Pangと私はrisk takersとなり、G9の経済単元に命を吹き込むことにしました！幸運なことにKISTコミュニティのMr Jay Bailey、Head of Management Assuranceのご協力の下、NABへの校外学習が実現しました。Bailey氏と同僚でいらっしゃる Masato Hori 氏の前でG9AとG9Bが発表をさせていただき、貴重なご意見をいただきました。生徒たちは5分間の発表に多くの情報と努力を詰め込み、授業で学んでこと以上の資料を参考に最大限の成果を発揮しました。彼らの発表は同席したすべての人に大きな感銘を与えました！これらformative課題で行った発表が最終的なsummativeに向けた自信や経験を与えてくれたのだと思います。Mr Baileyによると、この生徒たちの中から、将来有望な企業家が多く誕生しそうです！

Ji Hye、Rohith、KenzoとHeizoがNABでビジネスプランを発表中。

Marlinah (G9A)が"dragons"に自身の商品サンプルを提供しています。



Rohith (G9A)が自身の製品の非価格的価値について説明をしています。

経済学履修生の日本銀行訪問

2017年2月14日にG12 DP経済クラスで日本銀行を訪問する機会を得ました。経済に深い関心を持つ生徒である私たちにとってこの国の経済の中心を担う日本銀行への訪問は素晴らしい経験でした。この訪問は、経済の授業で得る知識や経験の枠組みを超え、実社会で経済がどのように機能するかを知るまたとない機会となりました。

今回の校外学習では、行きにも、訪問中も全く問題が起こらず、非常にスムーズなものでした。日本銀行に到着すると、まずガイドをしてくださる方にお会いし、日本銀行の目的と様々な部署についてご説明いただきました。また、日本銀行では毎日100兆円を超える取引を行っていると聞いてびっくりしました。たったひとつの組織でこのような高額取引が可能だという事実にただただ驚くばかりでした。その後、案内の方に従って過去の日本銀行総裁の肖像が飾られた廊下を見学しました。これら肖像は東京駅も設計した建築家、辰野金吾氏による旧日本銀行に飾られていたものです。さらに日本銀行重役が会議に使用した部屋を見学し、以前は大量の金塊や札束が実際に保管されていた金庫室も見せていただきました。金庫を守るための設備は想像以上でした。横向きのピラミッドのような、総重量25トンになる三層の鋼の扉がしっかりと金庫の守りを固めていました。この扉が金庫に至る唯一の道で、その他にもセキュリティー強化のために金庫に到達するまでに複数の扉が設けられていました。

日本銀行新旧の建物を案内していただいた後、日本経済立て直しのための今日本政府が行っている経済政策についての講義を受けました。そこで中央銀行が-0.1%のマイナス金利を導入しようとしている理由について教えていただきました。ここでいう金利とは借入の際に生じるものではないので、日本銀行から借り入れをする企業に金利が支払われるわけではありません！（悲しいことにそんなに素晴らしいことが起きる世の中ではないのです）。これはどちらかというと手付や預入のようなもので、企業が日本銀行に預金をした場合、銀行に対して金利である0.1%を支払うというシステムです。これは企業による預金よりも借入を増やし、経済を促進させるための仕組みです。学校では学ぶことのないこのような概念を学ぶことは非常に知的好奇心を触発され、またグローバルな観点から日本経済を俯瞰し、理解するのにとても役立ちました。

この訪問は私たちG12にとって教科書で学んだ範囲を超えた情報を理解し、自分たちが住んでいる国の組織がしている仕事を深く理解し、感謝するためのまたとない機会になりました。このような素晴らしい訪問を企画してくださったDP経済教師のMr Erickson と Mr Boyd に特別の感謝を捧げます。

Rithvik (G12B)

セカンダリーSRC

セカンダリースクール・ダンス

2016年の12月14日にSRC主催のWinter Wonderland Danceが実施されました。このイベントには合計で79名が参加しました。SRCは、このイベントの入場料で得た収益の使用方法について、生徒アンケートを実施しました。この結果大多数の生徒が新しい**体育・運動用具**を求めていることがわかりました。SRCではこの結果に基づき、現在運動用具購入手続きを行っていますので、最新情報を楽しみにお待ち下さい！

ミドルスクール・ダンス

2017年2月17日には今年最初のミドルスクール・ダンスが実施されました。今回のテーマはWorld Cultures Dayで、民族衣装を着てこのイベントに華を添えてくれた参加者もいました。合計50名が参加した子のイベントでは16,540円の収益があり、これは学校のフットサルチームのユニフォーム購入費に充てられます。SRCではこれらイベントの収益をKISTコミュニティ全体のためにこれからも使用していきます。

SRCの予算使用法についての皆さんの意見をお聞かせ下さい。ご意見はSRC voice boxにぜひお願いします!

SRC 新役員

SRC では最近組織の改変がありました。これまでの9月～6月までの活動期間に変えて、1月～12月の期間で活動をしていきます。

2017-2018度SRC新役員です。

President

Rachel (G11A)

Vice President

Sara (G11B)

Secretary

Nimit (G9B)

Treasurer

Krisha (G10A)

Public Relations Officer

Shouheng (G11B)

今後のイベント予定

2学期に入り、SRCではいくつかの新しいプロジェクトを計画中です。今年は2011年3月11日に起きた東日本大震災支援のためのフリードレスデイを3月10日に行います。このイベントで集まった寄付金は全額被災者支援のために現地に送られます。

Secondary SRC

スタッフを対象とした安全講習

KISTのミッション

ケイ・インターナショナルスクール東京は、文化的社会的に多様な背景をもった背景をもった学習意欲のある子どもたちに、**安全で人をはぐくむ環境の中で**、質の高い教育を提供し、国際社会に貢献する、人格的に秀でた有能な若者を育成することです。

KISTでは生徒及びコミュニティメンバーに対し、安全な環境を提供することを目指しています。2月には合計42名の教職員が深川消防署を通して普通又は上級救命講習を受講しました。緊急時への対応をより多く学ぶために研修に参加した教職員の皆さんに感謝します。今年の5月及び8月にも更なる救命研修を予定しています。

Project Rousseau

2月2日から2月6日まで、KISTではProject Rousseauから学生4名（と引率1名）を迎えました。Project Rousseauは、困難な背景（世帯年収が10,000 USD以下で、さらにもう一つ困難な状況におかれている）を持ちながら、高い学習意欲を持ったセカンダリー生の支援を行っているアメリカの団体です。

来日した学生たちには、KISTの有する多様な文化を体験する貴重な機会として、KISTコミュニティのご家庭にホームステイをしました。東京滞在中、学生たちは丸一日KISTで11年生と授業を受けて過ごし、その後は都内観光をして過ごしました。KISTでの滞在期間後は京都で日本の学校の生徒たちとの交流と、日本人家庭でのホームステイを行い、帰国しました。KISTでの体験は伝統的な日本の学校やご家庭での体験との対比となり、また、日本の国際化に関して良い印象を持ってもらえたと感じています。

ホストファミリーとして学生を受け入れてくださったKIST生のご家族、KIST生、そしてProject Rousseau側の参加者からの報告は、今回の交流プログラムは全ての関係者にとって非常に有益な経験であったことを証明しています。今回来日した4名にとって貴重な経験を提供してくださったKIST保護者、生徒、スタッフの皆さんに感謝いたします。また、ホストファミリーとして学生を受け入れてくださった**Imanishi** family (G6 & K3)、**Moore** family (G6)、Li family (G5 & G2)、そして**Hasegawa** family (G9 & G5)の皆さんの温かいおもてなしに特に感謝致します。

Project Rousseau 生からのメッセージ:
日本で私たちを心から歓迎してくださった、KISTコミュニティの皆さんと、ホストファミリーの皆さんに大きな感謝を捧げます。日本に到着するまで、私たちの一部は海外が初めてだったことや、誰も日本語が話せず、日本文化についても知識がまったくなかったので、少し不安でした。でも、KISTで会った皆さんはとても親切で、東京について色々教えてくれるだけでなく、私たちのことも積極的に知ろうとしてくれました。ホストファミリーの皆さんもとても思いやり深く、たくさんのことを教えて下さいました。ホストファミリーの皆さんの文化を知り、彼らの敬意あるおもてなしの心を体験することができたことは素晴らしい経験でした。KISTでの時間もとても貴重なものでした。皆さんとても温かく私たちを受け入れてくれ、多くのことも学べたので、もっと長い時間を過ごしてみたかったです。この経験のお陰で私たちはより異文化について関心が高まりましたし、いつかまた日本を訪れるまで、今回の旅行の一つ一つの思い出をを大事にしていきたいと思っています。このような一生に一度の素晴らしい機会を提供してくださった皆さんに心から感謝します！

Rosa、Juan、Shantell と Kathy

"絶対に忘れられない、素晴らしい経験でした。(Aki、G5A)"

保健便り

インフルエンザの流行を防ぐために

一人がインフルエンザに感染すると、あっという間に周囲の全員が感染するということが多々起こります。感染症防止センター（米国ではCDCと呼ばれています）によると、インフルエンザウィルスは感染者に症状が現れる前に既に周囲にも感染が広がっているのだそうです。また、発症後一週間程度は他の方にウィルスをうつしてしまう可能性があるとも言われています。しかし、幾つかの簡単な方法を実行することでインフルエンザの感染を防止し、流行を防ぐことがができるのです。

- **予防接種を受ける**

  専門家によると、インフルエンザ感染防止の最も有効な手段は予防接種を受けることだそうです。季節性インフルエンザの予防には注射と鼻腔スプレーワクチン（FluMist）の二種類があります。

  生後6ヶ月以上の場合、予防注射をお薦めします。また米国では2歳から49歳までの健康な人々全て、50歳以下の妊娠の可能性のない女性を対象に鼻腔スプレー式のワクチンの使用が認められています。慢性疾患のある個人の場合、鼻腔スプレーの使用はできません。

  予防注射の場合、発熱、頭痛、悪寒、また注射痕の痛みなどが発生する可能性があります。これら症状は通常軽いもので、1日から2日でなくなります。卵や水銀に重度のアレルギーがある場合や、過去ワクチンに対して拒絶反応などを経験した事がある場合は接種前に医師にご相談下さい。

  ワクチン接種の時期はインフルエンザの流行が始まる前の10月あるいは11月から12月中旬までが望ましいです。

- **咳やくしゃみを飛ばさない・覆う**

  インフルエンザは飛沫感染が主な原因です。咳やくしゃみをする時はティッシュなどで口や鼻を覆いましょう。また、ティッシュはすぐに捨て、手を洗って下さい。もし、ティッシュがない場合は、肘の内側を使って覆います。保護者の皆様にも、お子さんにこの習慣をつけるお手伝いをお願いいたします。

- **頻繁に手洗いを行う**

  石鹸とお湯で30秒間（「ハッピーバースデイ」の歌を2回歌う間が目安です）丁寧に手を洗って下さい。洗面所がない場所にはアルコール除菌スプレーを設置することをお勧めします。トイレの後、食事の前と後、そして帰宅した際には必ず手洗いを行うよう、お子さんにもお話下さい。

- **頻繁に触れる場所を清潔に保つ**

  ドアノブ、机、キーボードなど、定期的に手を触れる場所を消毒し、清潔に保ちましょう。インフルエンザウィルスが付着している物に触れた手で口や鼻、目に触れることで感染する場合があります。

- **目、鼻や口に触れることを極力防ぐ**

  インフルエンザウィルスは硬表面で2~8時間活動を続ける・生き続けることができます。そのため、気づかないうちにインフルエンザに感染する可能性が高いのです。例えば、ウィルスに汚染されたドアノブやスイッチに触れた手で目をこすったり、爪を噛んだりすることで、感染する危険があります。特に子どもの場合、顔に触れないことは難しいかもしれませんが、是非頻繁に（ご自身を含め）意識していただきたいと思います。

- **外出しない**

  もし、ご自身やお子さんが発症した場合、感染拡大を防ぐために外出しないようお願いします。また、可能な限り（1週間程度は）他者との接触を避けて下さい。

- **健康的な生活習慣を維持する**

  十分な睡眠を取り、バランスのよい食事を摂り、水分を十分に取って下さい。また、ストレスを溜め過ぎないようにリラックスするための時間を設けるようにして下さい。健康的な生活習慣によりインフルエンザが流行する時期の家族の健康を守ることができます。

Stephanie Pae
School Nurse

参考資料:

- Laurie Herr, 7 ways to flu-proof your home, Healthline, Retrieved from http://www.healthline.com/health/flu-proof-home
- Influenza Prevention; Hand Washing for 30 seconds, Nikkei Duel, Retrieved from http://dual.nikkei.co.jp/article.aspx?id=1965
- Key Facts about Influenza (flu), Centers for Disease Control and Prevention, Retrieved from https://www.cdc.gov/flu/keyfacts.htm

Japanese New Year Party

毎年恒例となっているスクールイベントJapanese New Year Partyが1月25日に快晴のもと行われました。今年も木瀬部屋の力士にご協力頂き盛大に行うことができました。総勢23名の力士が来校し生徒たちと一緒にもちつき、お相撲を楽しみました。体育館では相撲が行われ、「はっけよーい、のこった」という掛け声とともに4、5人の生徒が束になりお相撲さんを押しにかかると白熱した一進一退の攻防がみられました。生徒たちが土俵際に追い詰め、マットの外に押し出すと生徒たちには満面の笑みがこぼれ、お相撲さんたちの胸や、背中は見事に真っ赤になっていました。また相撲だけでなく呼び出しさんの実演や、太鼓を打つ姿（太鼓を打つのも呼び出しさんの仕事の一部）、床山さんの髪結い実演など大相撲を支える裏方さんの仕事を身近に見ることができました。

屋外ではもちつきが行われ「よいしょー、よいしょー」の掛け声でもちつきをする生徒たちの姿が見られました。つきたてのお餅を保護者ボランティアの方々に味付けしてもらい、あんこ、きなこ、海苔の3種類から好きな味を選び、おいそうに頬張る生徒たちの顔には満面の笑みが。

休憩中のお相撲さんはFieldで生徒たちとバスケや鬼ごっこをして遊んでくれ、生徒たちにとって滅多にない貴重な体験になったことと思います。毎年お手伝いして頂いている木瀬部屋さん、保護者ボランティアの方に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

Week of Code

2月20日から24日までにかけて学校全体で行われたこのイベントでは、世界でも屈指のプログラマーや企業の方をお招きし、講演をしていただきました。このイベントの実施と成功に貢献してくださった以下の方々に感謝致します。
講師: Kevin Lim、Matt Smith、Ryoichi Seto、Mr Suzuki
通訳: Jiu (G11B)、Ms Wakasa
ITチーム: Mr Whittaker、Mr Downey、Mr Tim
教職員: Mr Sullivan、Ms Watanabe、Mr Honda
Special thanks: Yuki Suga、Sugar Sweet Robotics

来年度に向けたサポート
今年のイベントは、コミュニティのサポートによって学習の場を提供できることが証明され、大成功に終わりました。KISTコミュニティの皆様には、来年のイベントに向け、KISTの次世代を担うプログラマーたちへ講演を行ってくださる個人や企業様をご紹介くださるよう、お願いいたします。ご協力頂ける方は、こちらにご記入をお願いいたします。

このイベントの写真やビデオはこちらからご覧ください。 Moodle > LMC > **Clubs & Events**

The IT Team

Kevin Lim

講師: Kevin Lim

Tokyo Indie Fest 2017の主催者
Coding for Lifeコンテストは、毎年5月に秋葉原で行われているゲームデザインコンテストであるTokyo Indie Festivalの一部門です。KISTでも現在、ビデオゲーム業界のトップによって審査が行われるこのコンテストに参加するべく、ゲームをデザイン中。審査に通過すると東京の人々が実際にコインを払って・使ってゲームをし、最も多くののコインを獲得したチームが優勝します。このコンテストへの参加は生徒の論理的思考力、創造性、効率的なプログラミング・デザイン能力などを発達させるため、すべての生徒の参加をお勧めします。

Matt Smith

講師: Matt Smith

Friend & Foeのプロデューサー・デザイナー
Matt Smith氏はTetris Monstersのクリエイター・プロデューサー・デザイナーとして有名です。彼は世界中で人気となったゲームの制作過程のすべてに携わりました。EAでTetris Monstersに関わる前は、定番となったゲーム、Plants vs Zombies、Zuma's Revenge、PopTower などのプロデューサーとしてPopCapに勤務していました。彼はPopCapがまだ従業員10名程度の頃からEAに買収されるまでずっと同社に勤務していました。MattはG6とG8の生徒たちに自身の体験について語り、多くの質問に答えてくださいました。彼の講演は生徒たちのプログラミング意欲に火を付け、多くのアドバイスを与えてくれるものとなりました。

Ryoichi Seto

講師: Ryoichi Seto

Oracle Academy、マネージャー
オラクルは データベースに特化したアメリカ企業です。オラクルの有名な製品に広く使われているJavaや My SQL などがあります(KISTのウェブサイトでは**MySQL**が使われています)。**JR 東日本** (電車の運行管理)、**マクドナルド**、**Sky Perfect TV** なども日々の運営にオラクルに大きく依存している企業例です。現在の10年生は昨年オラクルで職業体験をさせていただいています。Mr Setoはコーディングを実際の動きや反応に反映させる例として可動式ロボットでの実演をしてくださいました。

Mr Suzuki(左)

講師: Mr Suzuki

AFREL Japan
Afrel は学校や個人、放課後活動としてロボティクス教育や **LEGO Programming**などを提供している(IT)教育に特化した日本企業です。今回はG3の生徒を対象に12セットのロボットを持参いただき、コーディングを体験する機会を提供していただきました。

KIST Loves Lego

Lego Leagueへの初参加

冬休み中にKISTから2つのチーム– the KIST Rangers と Cosmic Koalas – が自作のレゴ・ロボットで他校と生徒たちと対戦しました。東京工業大学で開催されるこのイベントは世界規模のイベントです。

Mr Downeyのレゴクラブメンバーは学期中ロボットのプログラミングだけでなく、イベント参加準備のために熱心に活動してきました。

両チームとも時間制限がある中で、時に点数を失いながらも、熱心に競技に参加しました。

皆さん、良く頑張りました。また来年の活躍に期待しています。

このイベントのビデオ **exciting video** です。

Moodle > LMC > **Clubs & Events**

レゴ・ロボ相撲チャレンジ

Mr Downeyのセカンダリーレゴクラブチームと、Mr Timのエレメンタリー K-Tech レゴクラブは現在レゴ・ロボ相撲チャレンジのためのロボットのデザインと製作を熱心に行っています。

毎年恒例のロボットコンテストは横浜のサン・モールインターナショナルスクールで開催されます。このイベントでは、レゴエンジニアチームの面々が日本の国技である相撲を行うロボットをプログラミングします。プログラムされたセンサーやモーター、そして素早さやバランス感覚に優れたデザイン性を駆使してロボットたちは相手を土俵から押し出す事を競います。

勝者は東京都の2017年度ロボット相撲チャンピオンという称号を与えられます。皆さんの健闘を祈ります！

Mr Tim, Mr Downey, Mr Whittaker
The IT Team

ハビタット・フォー・ヒューマニティー（H4H）

H4Hとは？

H4Hは1976年にアメリカ合衆国で設立された、国際NPO、NGO 法人です。発展途国の貧困や劣悪な住まいの問題を解決して いくため、世界約80か国で支援を受ける人々そして世界中 のボランティアと共に、住宅建築や自立支援に取り組んでいます。KISTでは2006年からH4Hの活動に参加しています。

H4Hの活動に掛かるコストと私達の取り組み

2017度KIST H4Hチームは2017年6月中旬に約15人のメンバーでベトナムへ行きボランティアチームとして10日間ほどH4Hの建 築活動に参加することを計画しています。実際に現地に行くためには、建築資材費や現地への寄付を含む 参加費や渡航費、宿泊費など一人当たり約230,000円の資金が必要となります。その結果、過去にはその費用を払うことができる一部のご家庭の方のみが家を建てに行くことができました。このことを不公平だと感じた2017度KIST H4Hチームは、今年学校初の試みとして一般企業や個人事業主の方々にスポンサーとしての支援をお願いすることにしました。今年度の資金調達目標は2,500,000円です。

どのようにして行われるか？

私達が作ったパンフレットや手紙を通して私たちの活動にご興味を持っていただいた一般企業や個人事業主の方々には、直接会社へ行き私たちの活動の詳しい説明やご協賛によるスポンサーの利益についてのプレゼンテーションを行います。2月15日現在、私たちは6社/団体の方々の前でプレゼンテーションを行いました。

ご質問やご支援頂けます企業様及び個人事業主様は 以下までご連絡ください:
2017 H4H チームリーダー**小牧陽路 / 本田行則**
hiro.komaki@kist.ed.jp / yukinori.honda@kist.ed.jp

重ねて、私たち2017年 H4Hチームへのご支援、心よりお願い申し上げます。

2017 KIST H4H チーム 岩手県校外学習

2月の11日から13日まで、H4Hチームは岩手県庁のご招待で2泊3日の宿泊研修を行いました。私たちが訪問させていただいた多くの場所；琥珀博物館、浄土ヶ浜、盛岡でのわんこそば体験、雪祭り、岩手銀行でのプレゼン、の中で一番印象の残ったのは三陸鉄道の震災学習列車でした。乗車していた70分の間、2011年3月11日の東日本大震災についてのお話を伺いました。列車は津波の被害を受けた地域の側を通過しましたが、その光景は震災直後にテレビでみたものと殆ど変わらないものでした。震災がもたらした多くの被害を思い出し、心が痛みました。私自身もこの列車に乗車したことで、より地震についての意識や防災意識が高まったと思います。岩手は震災で大きな被害を受けましたが、それでもとても美しい自然に恵まれ、温かい人達の住む場所だと知り、また、復興のための岩手の方たちが傾けていらっしゃる気持ちや努力に圧倒されました。H4Hのメンバーと岩手で過ごした3日間は私にとって忘れられない素晴らしい経験となりました。また、絶対に岩手を訪問したいです。

Su Bin (G11A)

岩手滞在の最終日、我々H4Hチームは岩手銀行さんで我々のボランティア活動の目的や資金調達計画のプレゼンテーションをさせて頂きました。受付で皆に名札が配られると、男性社員の一人が優しい口調で「こちらへどうぞ」と会議室へと我々を通してくださいました。KISTが始まって以来、生徒が直接企業に行ってファンドレイジングのプレゼンテーションをするのは初めてだったこともあり、先生を含め我々メンバー全員が緊張をしている中、プレゼンテーションが始まりました。残念ながら今回は相手に応じたプレゼンテーションができず、支援をしていただくには及びませんでしたが、岩手銀行の方々はとても親身にお話を聞いてくださり、今後どうすればいいかなどのアドバイスなどをしていただけました。我々にとって、とても苦い最初の一歩となりましたが、社会に出た時の厳しさや今後の課題を知ることができてとても勉強になりました。

Taisei (G11A)

World Cultures Day生徒セミナー

MYP生がWorld Cultures Day記念セミナーに参加しました

G9とG10の生徒がLMCでの生徒主導セミナーでWorld Cultures Dayを締めくくりました。**Igor** (G10A)の司会で、言語、アイデンティティ、文化や国際理解と言った分野について白熱した議論が展開されました。

DP 生の**Seina**、**Sneha** と **Miu** (G11B) は言語と文化の複雑かつ豊かな融合が生徒としての時間や人生にどのような影響を与えたかについてそれぞれ話しをしてくれました。その後、言語や異文化における多くの経験をお持ちのMYP教員Mr Leeと Ms Aoeも参加してくださいました。

当日観客として参加していた**Lilya** (G9B) が以下文章を寄せてくれました。

学校に着くと、すぐにたくさんの子供達が走り回っているのが見えましたがいつもと違って皆民族衣装を着ていました。日本の着物や韓服を着ている子どもたちもいました。皆自分の国を代表する様々な衣装を身に着けていました。

アドバイザリーでは、Ms Aoe、Mr Lee、G10 のIgor、G11 の Seina、Sneha、Miuによる討論会に観客として参加しました。6人はそれぞれ自身の文化的アイデンティティ確立の難しさについて話してくれました。

インターナショナルスクールに在籍していたことにより、私自身常に異文化にさらされていました。国籍は日本であるのに私の第一言語は英語で、これまでも「日本人に見えるのに、それらしい行動を取らない」事により奇異な目で見られたことがたくさんあります。この発表により、私は一人ではなく、多くのインターナショナル生が文化的アイデンティティの問題に直面し、何とか一つの国や文化に自分を適応させようとしているということを学びました。多くの生徒達は一つ以上の国に所属し、そのことが自分を将来の国際社会の一員にしてくれると感じていると思います。でも、このセミナーを通して私は生まれた国や住んでいた国によって個人としての資質が決まるのではなく、自分自身の内面がもっとも重要なのだということに気付かされました。

このセミナーは成長の重要な過程にある私たちの年代にとってとても貴重なものであったと思います。生徒たちは文化的なアイデンティティの問題に直面しているのは自分だけでなく、複数の国にまたがって所属することも当たり前で正しいことだと気づくことができました。

写真撮影 **Emiri** (G10B)

今年はIgor (G10A) が司会を務めてくれました。

Sneha (G11B) と Miu (G11B) の前で Mr Lee がコメントをします。

Ms Aoeも文化と言語について意見を述べてくださいました。

Seina (G11A)も自身の経験について話してくれました。

リサイクルの取組み

紙ゴミリサイクルボックスの設置と、オンライン・アートチャレンジ

昨年、**Hotomi** (G6A) と私 (**Ryu** G10A) で「リサイクルに取り組む」奉仕グループを立ち上げました。立ち上げの目的はKIST,そしてコミュニティでリサイクルを促進することです。なぜ、リサイクルを促進するかというと、単にゴミにしてしまうより、リサイクル製品のほうが環境に優しく、地球温暖化削減に貢献できるからです。リサイクルを促進し、温暖化を防止することで、私たちの次の世代にも青空や、様々な生き物とのふれあいの機会、そして清潔で気持ちのよい空気を残したいと考えています。

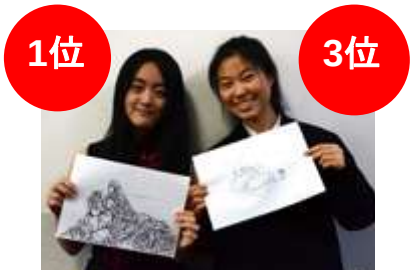
昨年12月、Hotomi、**Milan** (G10B) そして私で学校を変える手始めに6つの箱を作り、セカンダリースクール1階に設置しました。元々設置されていたリサイクルボックスはプラスチック製で、目的にそっていなかったということから、ダンボールで緑色に塗った手作りの温かみを感じるものに取り替えました。このような身近に感じるボックスを設置することで、箱そのものにも親しみを感じてもらい、リサイクルに繋げられると考えました。この箱を設置したことで、生徒たちは、教科書、紙片、古新聞など何でもリサイクルできるようになりました。それでも、まだまだセカンダリーでリサイクルに関して出来ることはもっとあり、リサイクルへの取り組みに関して積極的に変えていくべきことがまだ多いと感じます。

リサイクルをさらに促進するための手段として、グループでは楽しい参加型の"One-Line Art Challenge"を企画しました。このチャレンジの内容は簡単で、一筆書きの手法で作品を創り上げるのです。今回の作品のテーマは、参加者が地球規模でのゴミ問題を意識してくれるように、「リサイクル・コミュニティ、または自然」にしました。多くの生徒に参加してほしかったので、グループ内で5つの優秀作品を選び、その後セカンダリー生全体で最も良いと思った作品を投票で選ぶことにしました。選ばれた作品は一階のリサイクルボックスに使用されます。

この取組を生徒たちにとってより魅力的なものにするために、セカンダリーの「ハウスポイント」システムを利用しました（セカンダリーでは、各生徒が赤、青、黄色、緑の「ハウス」のどれかに所属します。各ハウスは様々な活動で与えられるハウスポイントで競い合い、年度末に最も多くのポイントを獲得したハウスが勝者となります）。今回のチャレンジでは3位のハウスに100、2位に200、1位のハウスには500点を提供することにしました。

この取り組みを周知するために、校内各所にポスター掲示するとともに、1月30日から2月3日までの期間、30秒のプロモーションビデオを流しました。また、より多くのデザイン画を投稿してもらうために、各ホームルームや、Mr Jonesの美術のクラスでも活動について宣伝しました。これらの活動のおかげもあり、今回のOne-Line Art Challengeは成功したのだと思います。2月の6日から9日にかけて30ほどの作品が寄せられ、171名のセカンダリー生が投票に参加してくれました。

今回のチャレンジの優勝者は**Hitomi** (G10A)でした。彼女の作品はドレスを纏った女性が茨に囲まれている美しいもので、おとぎ話の薔薇姫を連想させました。その他の投票結果は以下の通りです。



Hitomi (G10A)
House color: Blue

Chae Hyun (G10A)
House color: Red

Miu (G11B)
House color: Green

Varsha (G10A)
House color: Yellow

Minn Thant (G7B)
House color: Red

今回のチャレンジは作品を投稿してくれた生徒たちだけでなく、投票をしてくれた生徒たちも参加できるものでした。私自身もこのアイディアを実行に移すためにメンバーと話し合うなど、積極的に活動することを楽しみました。

この取組に協力してくださったSRC、ホームルームの先生方、そしてグループメンバーに感謝しています。これからもグループでより積極的に参加してもらえ、皆の役に立つ活動を提供していきたいと考えています。

Ryu (G10A)
Recycling Initiative Co-founder

TASSEL活動

カンボジアの子どもたちに英語を教える活動に加え、TASSELではカンボジアの家庭を財政的に支援するため、様々な行事の際にKISTで資金調達活動を行ってきました。

去年の12月にTASSELではクリスマス限定の資金調達イベント、サンタとの写真撮影ブースを運営しました。これはKISTのエレメンタリー生を対象にしたもので、自分たちと同じ年頃のカンボジアの子供たちの窮状を知ってもらい、彼らを支援するきっかけにしてほしいと願ってのことです。サンタと写真を撮り、TASSELに寄付（撮影代として支払う）ことはカンボジアの子どもたちを助けるための簡単な第一歩です。多くの生徒はサンタと写真を撮ることだけでなく、TASSELの組織そのものにも興味を持ってくれました。更に保護者の方からもカンボジアの子どもたちを支援する活動に対して賛辞をいただきました。

TASSELは今月も新たな資金調達イベントを行いました。バレンタインのバラを贈るキャンペーンです。バレンタインの日にはKIST生に100本以上のバラの花と送り主からの心のこもったメッセージを届けました。この活動でTASSELはKISTコミュニティに美しいバラとチョコレートとともに幸せを届け、そしてカンボジアの家庭のために寄付を集められるという素晴らしい結果をもたらしました。

私はTASSELに参加して今年2年目になりますが、これらの活動に参加し、カンボジアの人たちを支援できることを嬉しく思います。私は特に生徒の熱心さが私にも笑顔を分けてくれる、VSEEを通した英語指導の活動が好きです。また、生徒たちが数ヶ月で驚くべき進歩を遂げるのを見ることができるのも感慨深いです。

私たちの活動が彼らの将来に少しでも貢献できるなら嬉しいです。
TASSELではこれからもカンボジアへの支援を行っていきます。

Hyun Jeong (G11B)

私のTASSELでの初年度は素晴らしいものでした。TASSELは支援を必要としているカンボジアの子どもたちに教育の機会を提供する団体です。私はVSEE（ビデオチャット機器）を使用した教師に志願しました。子どもたちはとても可愛く、授業終了時には私たちもカンボジアの子どもたちもお互いに激しく手を振り合い名残を惜しみ、通話を切るのが難しいくらいです。教えるのは、特にゲームなどをするのはとても楽しいです。また、正しい回答ができたときなど、子どもたちは手を叩いて、とても嬉しそうにします。

TASSELに参加したことで、支援を行うことで得られる喜びや、切実に支援を必要としているカンボジアの人たちの現状を知ることができました。これに気づけたのも、接続問題で子どもたちに教えることができなかった期間があったからです。未来を担うカンボジアの子どもたちを支援することは非常に重要な事だと確信しています。TASSELに参加し、人を助けるという貴重な経験をすることができました。そして来年も絶対TASSELの活動に参加します。
—**Meng Ting** (G10B)

TASSELに参加したことで私は良い意味で変わることができたと思います。私はいつも子どもたちに接することが好きでしたが、カンボジアの子どもたちに教えることで、より生徒たちを好きになり、大切に想うことが出来るようになりました。授業を受けに来る子どもたちは皆熱意に溢れ、思いやり深く、純粋な学習意欲を持った愛すべき生徒たちです。彼らは常にベストを尽くし、意欲を失うことはありません。子どもたちの性質で私が感心するのは（私を含む）一部の人達のように課題が多すぎたり、学校でのストレスについて不平不満を言うことが一切ないことです。子どもたちの一人一人が意欲と決意を持って学習に向かっている姿勢は本当に見習うべきものです。この子どもたちと接することで、自分が持っているもの、与えられているものの価値に気付かされました。子どもたちが盛り上がったり、質問に正しく答える事ができた時、彼らの表情がぱっと明るくなることで、私まで心が暖かくなります。この子たちを教えることが喜びであるという私に意見はTASSELの全ての講師に共通のものだと思います。
—**Varsha** (G10A)

TASSELの活動の一員になれることは素晴らしい経験です。カンボジアの恵まれない子どもたちを支援するために出来るだけのことを行うと同時に、自分たちの生活を省みて、すべての人にとってより良く、平等な社会を作るための責任を痛感しました
—**Nikita** (G11A)

カンボジアの子どもたちを教えるのはとても楽しく、また、自分がより責任感を持つよう自覚する良い機会となりました。毎週生徒たちは私たちの授業を楽しみにしてくれます。授業で彼らとふれあい、楽しい時間を過ごすことがTASSELの活動で一番好きなことです。
—**Natalie** (G11A)

クラブ活動のハイライト

写真クラブ（エレメンタリー）

自己表現をし、日常を記録する方法として写真ほどよい方法は他にあるでしょうか! 写真クラブでは、写真技術や画像・映像の解釈についての基本を学びます。クラブの目的は効果的な写真のとり方を学び、その知識を用いてKISTの行事を効果的に記録することです。

エレメンタリーの写真クラブのメンバーには、今後予定されている学校行事での撮影を行うという大きな責任があります。既に、World Culture Eventでの記録撮影の予定が入っています。上記行事で撮影された写真や、これから撮る写真もあわせて学校中の掲示板やモニターで掲示される予定です。

今の子供たちは私が同じ年齢の頃は手が届かなかった技術に日常的に触れることができます。私自身初めてカメラに触れたのは高校生の頃でしたが、これまでとはものの見方が大きく変化したことを覚えています。生徒たち自身が興味を持った専門的な活動を行うことで、意欲や関心がより増すだけでなく、将来的に活かすことが出来る重要な技術を得ることができます。

Justin Wilson
Club Supervisor

和太鼓クラブ（セカンダリー）

毎週金曜日にセカンダリーの音楽室から大きな音がしているのに気がついた人はいますか。それは和太鼓の響きです。

和太鼓は誰でも叩けば音の出るシンプルな楽器です。しかし和太鼓はその叩き方によって様々な響き方がする奥の深い楽器でもあります。

また太鼓は腕だけで叩くのではなく、全身の筋肉を大きく使って叩くことでエクササイズやストレス発散にもなります。

和太鼓クラブには6年生から10年生までの生徒たちが参加していて、毎週金曜日に活動しています。練習ではウォーミングアップで素振りをしたあとに基本のリズムを叩いています。太鼓を叩く時には腕をきれいに上げるなどの所作も意識しながら、見た目も綺麗に演奏できるように練習しています。その後は複数のリズムを組み合わせて楽曲を演奏します。

学年も性別も様々なメンバーですが、みんなリズム感も良く、上達も早いので今後が楽しみです。これからはエンドオブイヤーコンサートで演奏を発表することを目標に楽しく活動していきます。息のそろった演奏をみなさん楽しみにしていてください。

Tatsuya Sakuma
Club Supervisor

図書室ニュース

World Cultures Day

2017年2月17日（金曜日）に行われ、大成功した**World Cultures Day**にご協力くださったCA図書委員会、保護者、生徒、ゲストの皆さんに感謝します。

イベントは素晴らしい日差しのもと、セカンダリー生のボーカルグループ*And Peggy* によるAdeleの "Rolling in the Deep" のパフォーマンスで始まりました。その後は緊迫した剣舞と、大人気の民族衣装パレードが行われました。

また、CAの手配で、K1からG8を対象とした、林家なな子さんと林家あんこさんによる日舞と落語の実演が体育館で行われました。

MPRでは生徒による展示やSRCによる多言語ビデオ撮影も行われました。

お菓子や食品の販売ブースも大人気で、私のお気に入りのカップケーキもあっという間になくなってしまいました。

西館のホワイエでは生徒たちが保護者の日本語、中国語、英語、そして初めて提供されたウェールズ語の読み聞かせを楽しみました。

セカンダリー生もエレメンタリー生を訪問し、テルグ語、中国語、北京語、韓国語をボランティアで指導してくれました。

これらは当日の本の一部です。イベントの写真や映像はこちらからご覧ください**Moodle** > Library > **Clubs & Events**

Mr Tim
Teacher/Librarian

サクラメダル投票

エレメンタリー生たちは10月から2017年度サクラメダル投票のための本を熱心に読んできました。今これを書いている時点で60の投票を受け付けていますが、今回の*The Comet* 発行までにはもっと集まっていると思います。

熱心な指導のもとで読書をし、投票に参加することで生徒たちはbook rewardsの最初の2段階、25票を超え、エレメンタリー図書室は*Zita the Spacegirl* シリーズを追加購入することができました。投票数が50になった段階で、*Cleopatra in Space*の追加購入を行いました。次の目標は75票で、ここに到達すると図書室は大人気の*Amulet* シリーズを追加購入することができます!

これまで集まった投票を祝うためにエレメンタリー生はセカンダリーのLMCで"Sakura Popcorn Party"に参加します。投票が100を超えることができれば、Reina Telgemeier's oeuvreや*Smile*、*Sisters*、*The Baby Sitters Club* などのグラフィックノベルズを蔵書に追加できますが、皆さん、自信はありますか？是非、エレメンタリー図書室で投票に参加して下さい！

次のページに続く

前ページの続き

新しく、そして改良された LMC と EL Moodle ページ

図書チームではMoodleを新しく、さらに良くなった形でお届け出来るよう努力を続けてきました！

リサーチリンク – 年齢・学年相当の教員推奨オンライン資料へのリンクを提供します。これにはMoodle経由でKIST生にのみ閲覧可能な資料への購読も含まれます。
引用アドバイス – すべての年齢の生徒にとって困難なのが引用の作成です。これを解決するためにAPAの引用サポートを提供します。これはG5でExhibitionに取り組んでいる生徒たちにとって特に必要な情報であるとともにExtended EssayやPersonal Projectに取り組んでいる生徒たちにも役立ちます。
Book Bloggers ブログ – 次に何を読んでいいかわからない人には、KIST生による書評が役に立つかもしれません！是非コメントを残して会話をスタートさせて下さい。大好きな（又は大嫌いな）本はありませんか？書評を**library@kist.ed.jp**に送っていただければ、book bloggers blogに掲載します! KIST図書室の蔵書に関する書評も歓迎しますが、図書室に購入してほしい本の紹介も歓迎しています。

新着情報はまだまだあります!

KIST 図書Moodleページをご覧ください。

ご意見お待ちしています…
保護者の皆さんをよりサポートできるような LMC・EL Moodle ページを目指しています。是非こちらからご意見をお聞かせ下さい**feedback form**
（またはこちらをタイプして下さい **http://bit.ly/2lPs2Rz**）

>>**Elementary Library**（またはこちらをタイプして下さい**http://bit.ly/2lFNaHw**）
>>**LMC**（またはこちらをタイプして下さい **http://bit.ly/2lFNpm3**）

新着情報: 今週から全てのKIST/KIPS 生保護者とG1-G12の生徒はこれらLMCの資料にアクセスいただけます（Mr Whittakerありがとうございます)!

Mr Tim と Ms Hynes
The KIST Library Team

運動部最新情報

ISTAA U-18バレーボール

KIST Comets がISTAAリーグに戻ってきました。限られたメンバー数にもかかわらず、チームは健闘しています。女子Cometsは2点という僅差でファイナル出場と2位での表彰台を逃してしまいましたが3位決定戦に勝利しました。男子チームは健闘したものの惜しくも3位決定戦で表彰台を逃してしまいました。Leeコーチを含め、参加した皆さんに感謝します！皆さんもこのシーズンを楽しんだことを願っています！

ISTAA U-18バスケットボール

男女 U-18 Cometsのシーズンも終わりに近づき、後1試合と、トーナメントへの出場を残すばかりとなりました。Otis、Grant両コーチはチームが良い完成度にあると感じており、ISTAAトーナメントでの活躍が期待されます。

Dennis Ota
Extra-Curricular Clubs and Athletics Coordinator

CAニュース

Kの保護者向けのセカンドハーベスト

昨年に引き続き本年も、11月18日、12月2日の10時から12時30分まで、浅草橋にあるセカンドハーベストへボランティアに伺いました。子供たちが企画して行うフードドライブ等で関わりをもつセカンドハーベストに、親も実際に参加して理解を深めるためです。両日とも、翌日土曜日のホームレスの方々への炊き出しの下準備のお手伝いでした。それぞれ大量の野菜切りや里芋などを洗った後に、20分程セカンドハーベストの仕組みについてお話しを聞きました。当日は、Kペアレンツ以外のボランティアの方々とお話しをしながら楽しく参加することができました。

今年もボランティア全員が初参加で、よい経験ができました。Food Driveをやったり、G5エキジビションでFood Lossを扱うG4～5のペアレンツはぜひ参加なさるといいと思います。

コミッティでは、再度機会を設けてお手伝いに行くスケジュールを設定したいと考えています。セカンドハーベストはどんな感じの所か興味をお持ちの保護者の皆様、次回は是非みんなで参加しませんか？

CAスチューデントイベント委員会

Japanese New Year Party

今年は1月25日にJapanese New Year Partyとして、木瀬部屋の協力によりお相撲さんたちが来校してくださり、楽しくお餅つきやお相撲を楽しみました。

このお餅つき、実は前日から準備をして行っています。もち米は学校のカフェの菊池さんの紹介により学校が農家の方から購入した無農薬のもち米を使用しています。今年は70 kg(！)のもち米を使用しました。

準備前日の午前中、ボランティアの父兄でまず、もち米を水で研ぎます。使用する器具も洗い、消毒スプレーを使用して食中毒がおこらないようにきれいにしておきます。(お餅つきの後の洗浄も大変ですが来年も清潔な器具を使用するために同じように、父兄の方が頑張っておこないます。)

研いだもち米は一晩水につけておき、早朝から学校スタッフの方々がもち米を蒸してくださります。それをお相撲さんに手伝ってもらい杵と臼でもち米の粒を潰すようにお餅つきをします。

前日、当日と朝から寒い中お手伝いして頂いた学校スタッフ、父兄の皆様、大変お疲れ様でした。お餅は縁起の良い食べ物と言われています。皆で協力して出来上がったお餅はとっても美味しかったですね。

KIST Community Association

スタッフ10！

友人たちと陣馬山をハイキング中のMs Pang (中央)。

今月のStaff 10!では、セカンダリースクール教師として2015年8月からKISTの一員となった**Yu Shan (Evelyn) Pang** をご紹介します。Ms Pangはシンガポール出身で、現在 Individuals & Societies（個人と社会）と 地理を指導し、G12Bのホームルーム担任でもあります。

- **出身地について面白いことを教えてください。**

私の国であるシンガポールは、端から端まで、北から南、東から西までのどちらのルートでも、1時間以下ででドライブできます。（文中であるように私の「出身国」であるシンガポールは同時に私の島-そして「町」でもあるくらい小さいのです）。

- **世界で一番好きな場所はどこですか？**

私の家族、友人たち、そして食べ物がある場所であればどこであっても大好きな場所です。良く晴れた暖かな気候であればなおいいです。

- **チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか？その理由を教えてください。**

未来の私自身でしょうか。人生の旅路を力強く進んでいけるように励ましてもらいたいです。

- **何か特別なスキルやタレントをお持ちですか？**

私たちの創造主は私たちを、どのような暗い中でもかすかな光を見つけられるように創ってくださいました。暗い側面や出来事が必ずあるこの世の中ではとても得難い能力だと思います。

- **ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。**

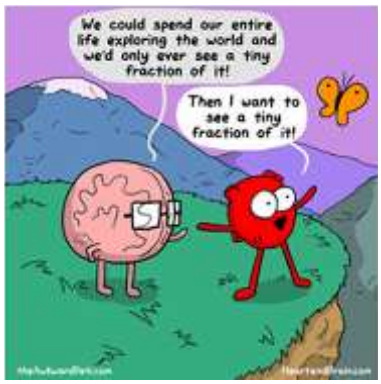
ジェットコースターが大好きなので、富士急ハイランドには是非行きたいです！

- **あなたにとって一番の宝物は？**

私は自身の魂の拠り所となる確固とした希望を持っています。この希望はどのような時も私の心の支えとなってくれています。

- **あなたはどのIB学習者像を身近に感じますか？その理由もお聞かせ下さい。**

Thinker・考える人です。もしかすると、考えすぎてしまう時があるかもしれません。（下の漫画、Theawkwardyeti.comのBrainとHeartの会話を参照して下さい）。私はたいてい脳で考える事に従いがちです。もうすこし、バランスの取れた人格形成をする必要がありますね！



- **もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか？**

いいえ。今の人生と不完全かもしれませんが、自分自身に十分満足しています。

- **自分を高めるために今やっていることは？**

私自身の中にある驚きと希望の念をこれからも発展（維持かもしれませんが）させ、これからも学び、忘れ、また学び続けていきたいです。

- **ファンに一言お願いします。**

「心配事や不安は明日の悲しみを減らさないだけでなく、今日の活力も奪ってしまう」（Charles Spurgeon）
この格言を最近読んで、私自身、そして多くの皆さんにも当てはまるのではないかと思いました。一度に襲い来る大きな波に圧倒されて、「とにかく今出来る小さいけれど大切な事、毎日を誠実に過ごすことを忘れてしまいがちです」今出来る「小さいけれど大切なこと」に最善を尽くしたいです。

オフィスアップデート

落とし物

西館受付横の落とし物箱にたくさんの落とし物が長い間回収されずあります。落とし物はユニフォーム・電子辞書・チャージャー・リコーダー・メガネ・ウォーターボトルなどです。

3月24日までに回収されない落とし物は処分させていただきます。落とし物・無くし物に心当たりがある場合は落とし物箱をチェックして下さい。また、保護者の皆様には、お子さんの持ち物に必ず記名して頂きますようお願いいたします。

退校

時期的に、転勤や異動などで、国内外に引越しされるご家族も多いと思います。お引っ越しなどのご都合で退校なさる場合は退校予定日の前、できるだけ早いタイミングでオフィスに**退校届を**ご提出いただけますようお願いいたします。退校届は学校ウェブサイトの以下リンクから入手いただけます。

http://www.kist.ed.jp/node/5

大学ガイダンスニュース

KIST Career and University Guidance Handbook

先月のE-Communications #173（Feb 2, 2017）でお知らせしましたのでお気づきの方もあると思いますが **KIST Career and University Guidance Handbook** が発行されました。このハンドブックには主な国の大学教育制度や進路進学プラン情報など生徒保護者の方をサポートする情報が載っています。こちら からログインしてご覧ください。（英語版のみ）

KIST Spring University Fair

March 20, 2 p.m. – 4 p.m. in the gym

今年も3月20日（Student Led Conferenceの日）2時から4時までKIST体育館で大学フェアを開催します。今年は23大学（日本から20大学、オーストラリア、カナダ、ヨーロッパから各1大学）が参加します。参加する日本の大学のほとんどは英語で授業が行われるコースですが、日本語で行われる通常のコースにIB特別入試を採用している大学もいくつかお招きしています。毎年恒例となったこのイベントにはエレメンタリースクールの保護者の方（エレメンタリーの**お子さんはご遠慮ください**）を含め全校の方を対象としております。ぜひ、各ブースで大学代表者にお会いになり、KIST卒業後の進路選択に関する情報を得られる機会をご利用ください。参加大学リストは巻末のフライヤーをご覧ください。

G9 and G10 University Information Session

March 17, 6:30 p.m. – 7:30 p.m. in the gym

生徒保護者の方が早くから大学進学について考え計画をたてることは大切です。このセッションでは以下のようなトピックをカバーしますぜひご参加ください。

- 大学進学準備、いつ始めるべきか?
- 大学出願過程について、どういう仕組みになっているのか？大学は何を求めているのか？
- KISTからはどのように出願すればいいのか?
- 統一テスト、SATや言語能力診断テストについて
- DP 教科選択について

G11 University Information Session

March 20, 12 p.m. – 1 p.m. in LMC

2学期に入り、11年生はLife after 2018! My Post-KIST Plan というブックレットをつかって進路進学プランを立て始めています。 G11 University Information Sessionではこのブックレットをつかってどのようにプランを立てるか、主な国の大学受験情報についてなどをお話します。11年生の生徒全員と保護者の方1名以上は必ず出席してください。

University Guidance Calendar

3月4月は一年で二番目に大学代表者のKISTへの訪問や東京エリアでの大学フェアの多い時期です。University Guidance Calendar をチェックしてぜひ参加してください。

Mrs Okude's visit to St Andrews University in Scotland, UK

St Andrews Universityで最も古い建物

2月にセント・アンドリューズ大学で行われたカウンセラーカンファレンスに参加しました。オックスフォード大学、ケンブリッジ大学についでイギリスで三番目に古く、数年前に創立600年を祝ったこの大学を訪ねる素晴らしい機会でした。歴史的な街とともに歩んだ由緒ある伝統校ですが、イギリスの大学としては珍しく、生徒の40%、教職員の45%はイギリス以外から来ているという国際的でイノベイティブな研究大学です。セント・アンドリューズ大学の全6スクールの教授陣からお話を伺い、世界中の学校のカウンセラー（アメリカ、カナダからがほとんどでしたが、中国、香港から数名来ていました）と情報交換ができました。この大学についてさらに詳しくお知りになりたい場合は奥出までご連絡ください。

Mrs Okude's visit to St George's, University of London, UK

St George's University Londonの前に立つ Jiaying と Mrs Okude

日本への帰路途中にロンドンのセント・ジョージズ大学に立ち寄って、2016年9月から医学部に入学したKIST卒業生**Jiaying**（KIST Class of 2016）に会うことができました。セント・ジョージズは250年前から今日まで病院としてまた医学教育期間として機能してきました。天然痘のワクチンを開発したエドワード・ジェンナーが医学を勉強した（1770年から1774年在籍）大学として有名です。次ページにあるJiayingの書いた記事もぜひお読みください。イギリス及び各国の医学部事情についてお知りになりたい方は奥出までご連絡ください。

Mrs Keiko Okude
Career and University Guidance Counselor
Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00
keiko.okude@kist.ed.jp

卒業生の声

JiayingはKISTの2016年度卒業生で、現在はSt George's、University of Londonに医学部の一年生として在籍中です。

Jiaying（左から2番め）と友人たち

東京からSt George's、University of Londonの所在地であるロンドンに渡ってはやくも半年が過ぎました。医療専門のこの大学で、私は昨年の秋から医学を学んでいます。まだまだ大学に入学したての一年生ですが、イギリスの医学部で過ごしたこの半年間のこと、そして受験の体験について書きたいと思います。

イギリスの医学科は五年制で、生理学や解剖学などの知識を学ぶ二年間の基礎医学課程と、実際にそれぞれの診療科の病棟を回る三年間の臨床医学課程に分かれています。患者さんとの接触のない基礎医学を学んでいる今、医者になるための勉強をしているのだと実感するのは解剖学と診察技術の実習です。私の通う大学は臨床技術に力を入れており、一週間目から医療行為の承諾の取り方に始まり、最近では聴診器を使った呼吸器系の診察を学びました。また、人体解剖実習も毎週行われています。最終的に身に付ける知識が同じとはいえど、大学により人体の構造の学び方はそれぞれで、もちろんどの方法にも一長一短はあります。例えばSt George'sでは既に解剖された献体を用いて消化器系、循環器系などと系統ごとに把握してから細部の理解を深めるのですが、一年間かけて実際に献体を解剖し、皮膚から骨まで層ごとに知識を積んでゆく大学などもあります。

同じように、ひとくちに医学科と言っても、基礎課程では大学を拠点とするものと、最初から病院を拠点とするものに大別できます。St George'sは病院をベースにしている大学（すなわち大学病院というより、むしろ「病院大学」）で、大学の施設が病棟、専門外来、救急外来及び研究所などに隣接しています。学生が講堂に入るために並ぶ傍らで担架に乗せられた患者が搬送させることもままありますし、診察技術を練習するシミュレーション病棟の真横には本物のリハビリセンターがあります。手術着を纏った外科医が大学の購買部で昼食を買っているなんて風景も日常茶飯事です。そんな学び場と仕事場が交錯する様子は、今理論として紙面から学んでいることが実際に現場で生かされているのだという確証を私に与えてくれます。また、救急救命士や放射線技師、理学療法士などを目指すほかの学生と共に実習に取り組む機会もあり、医療はチームが一丸となって施すものだという概念を早い段階で認識することができました。

周りの誰もが医療に興味を持ちこの分野に携わっているというのは刺激に満ちた恵まれた環境ではありますが、時にはそれが重圧になることもあります。あまりに同じ分野ばかりで、視野が狭まっていると感じるときこそ、ロンドンという活気あふれる大都市にいることを幸いに思うのです。私の住むサウス・ロンドンはロンドン中心部より地下鉄で三十分の交通も生活の便も良い地域で、週末に気軽に市内の博物館や図書館に出掛けたり、大学外の人と交流を持ったりすることが絶好の気晴らしです。こちらに来てからはしばらくやめていた競技かるたも、同好と定期的に集まるようになりました。年齢も職業も違う人たちと話すことによって、大学だけに囚われない人間関係を築くのがとても楽しいです。

そこで出会った一人が、現在MYPを履修していて、来年からDPで取る科目を今選んでいるのだそうで、その話題をきっかけに私は己の三年前にした選択が、今自分がここにいる要因の一部なのだと感慨深かったです。

私にとってDPの科目の選択はあれこれ悩むこともなく比較的順調なものだったと思い返します。大学では医学を学ぶのだと既に心に決めていたので、科目も自然とそれに準じたものになりました。英語、日本語、数学に加えての生物、心理学、そして化学は大学で医学知識を学ぶための確実な基礎になっています。生物と化学は生理学に、心理学は精神医学だけでなく法医学にも、更に数学は疫学の講義に応用されています。取り込む事柄こそより広く深く、詰め込む時間も一層限られたものとなりましたが、MYPやDPで培ってきた勉強の習慣が今のところ大学でも通用するのはひどく達成感があります。

このように医学部に繋がる科目を選ぶことに苦労はありませんでしたが、出願する大学を決めるのは大変難しいことでした。というのも、卒業後何を勉強したいかは明確に決まっていた一方で、どこで学びたいかについては全く見当がついていなかったのです。準備だけはアメリカ、イギリス、日本のどこへでも行けるよう進めました。アメリカのためにはSATとTOEFL、イギリスのためにはIELTS、UKCAT (UK clinical amplitude test)にBMAT (biomedical admissions test)と、夏休みの間は二週間おきにテストを受けていたことを思い出します。（後の祭りでもっと余裕を持って対策ができていればと悔やむ気持ちももちろんあります。）そうしていざ資料の提出を終えれば、試験の準備期間と重なる時期にインタビューのため何度も海外へ飛んだことも、今となれば懐かしい体験のように思えます。

さて、アメリカでは学士課程で医学を学ぶことはできないので、私は進路をイギリスと日本の二本に絞り、そして日本を発つ直前まで、この二つの選択肢の間で心が揺れ続けたのでした。実を言えば、今も、おそらくこれからも、私は度々この決断について考えることでしょう。

次のページに続く

前ページの続き

大学生活を送る場所は受験生の誰もが細心を払って吟味する要素ですが、これは医学部を、ひいては専門資格を取得することを目標とする学生には一層重要なものであると私は思います。それは、こういった国家資格は往々にして国同士での互換性がないからです。つまり私にとってイギリスに留学するということは、学生である数年間をここで過ごすだけでなく、もしかするとこれから数十年をこの国で過ごす可能性を覚悟した選択なのです。

なにしろ願書を出すまでイギリスに訪れたこともなかったので、これは一大決心でした。イギリスに赴くこと、日本に留まること。それぞれの利害を私は幾度も比較しました。それぞれの国内での選択肢の広さならば、断然イギリスの方が有利です。日本でもIB入試を導入する大学が増えてはいるものの、医学部も同じように出願できるところは、2016年時点で三校と限られている一方で、イギリスでは留学生枠の競争率こそ高いものの、基本的にどの大学にも出願することができます。学費面では、日本の国立大学でしょう。加えて、日本の医学課程には私が興味を持つ伝統医学の分野が組み込まれていました。けれど履修年数はイギリスが五年なのに対し日本は六年で、更に五月末の卒業から四月の入学までのおよそ一年の空白期間を含めると、合計二年も期間が長くなる計算になります。しかしこれらが慣れ親しんだ日本を離れる決定打となるのか。最終的に迷いを打ち払ったのは、行ったことのない国でこれまでに見たことのない物事を経験し、考えたことのなかった視点に触れるという魅力への期待でした。外から自らの生まれ育った場所を省みる、その機会があるのは今だけかもしれないと思えば、すんなりと決断ができたものでした。

その期待通り、St George'sは様々な文化的背景を持った人々が集まっています。比較的小規模な大学でありながら、学術サークル（解剖学、野外医療）から運動部（世界で初めて成立したラグビークラブ）、宗教から舞台演劇、多岐に渡るチャリティー活動から自己啓発のサークルに至るまで、二百以上という膨大な数を誇る学生サークルが、その多様性の現れです。例えば私の所属しているサークルの一つである言語サークルでは、毎週十カ国語以上のレッスンが提供されており、私自身もアラビア語、ロシア語とスペイン語での日常会話を習いながら、日本語を教えています。大学を踏み出せばハンバーガーなどのファストフードや中華料理のテイクアウトまでイスラム教徒の食べれるハラール認証で提供されていたり、それぞれの文化の主な祝祭日も市販されている手帳に記されていたりと、文化的多様性に対する寛容さに驚かされる日々です。

Jiaying と Edward Jennerの銅像

めまぐるしく環境の変わったこの六か月間で、学業においても生活においても、自主性が鍛えられ、そして責任と同じだけの自由も謳歌しています。これまで積み重ねてきたことが今に繋がり、そして今がこれからに生かされるのだと常々気付かされる感覚は非常に爽快です。正直、イギリスに来たということが果たして自分にどのような影響を与えるのか、まだ不透明な部分が多いです。これが一体私にとって良い選択だったかどうかは、ずっと先まで判然としないことでしょう。けれどもそれまでは、この活気に満ちた街を存分に楽しみたいと思います。

Jiaying
KIST Alumnus, "Class of 2016"

K. International School

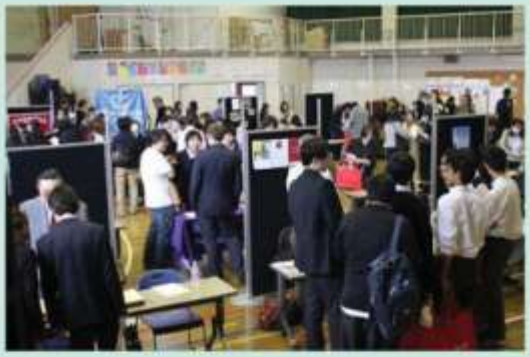
Spring University Fair

Date: Monday, March 20, 2017

Time: 2pm - 4pm

Venue: KIST Gym

Griffith University
HOSEI University
International Christian University
Yamanashi Gakuin University
Juntendo University
Keio University
Kyushu University
Lakeland University Japan
Meiji Gakuin University
Musashino University
Okayama University
Osaka University
Ritsumeikan Asia Pacific University
Ritsumeikan University
Sophia University
St. Thomas University
Temple University, Japan Campus
The University of Tokyo
Tokyo International University
United International Business Schools (UIBS)
University of Aizu
University of Tsukuba
Waseda University



KIST University Guidance Office
Mrs. Keiko Okude keiko.okude@kist.ed.jp